

DEPARTMENT OF LICENSING

ワシントン州ドライバーズガイド

Japanese

Washington Driver Guide

www.dol.wa.gov

警告標識



曲がりくねった道路



分離ハイウェイ
(道路) 始まり



分離ハイウェイ
(道路) 終わり



十字路



合流



車線終わり
左車線に合流



濡れると滑りやすい



前方に信号あり



急な下り坂



両方向道路



児童横断*



歩行者横断*



踏切あり



事前警告：
自転車に注意



路肩は舗装されて
いない



車線が増える
(右側より合流の
必要なし)



シカ横断



道は左に曲がる
時速 35マイル以下
が最適



追い越し禁止区域



低速度車両

*緑色または黄色の蛍光色の場合もあります。
グラフィックはワシントン州運輸局の協力を得ました。



STATE OF WASHINGTON
OFFICE OF THE GOVERNOR
Olympia, Washington 98504-0002

知事からのメッセージ

車の運転から得られる自由と便利さは素晴らしいものですが、安全運転は非常に大切な義務です。運転免許認可局（DOL）のドライバー・ガイドには、交通規則の理解に役立ち、安全かつ責任ある運転方法に関する重要な情報が説明されています。

運転免許証を取得し、ハイウェイを安全に運転するためには、本ガイドの内容を十分に理解することが大切です。本ガイドをよくお読みになり、一生涯の安全運転を心がけてください。

A handwritten signature in black ink that reads "Christine Gregoire".

Christine Gregoire
知事



STATE OF WASHINGTON
DEPARTMENT OF LICENSING

Olympia, Washington 98504-8001

局長からのメッセージ

ワシントン州での運転によろこそ。ワシントン州の公道を現在運転している人、そしてこれから運転しようとしている人に、このワシントン州ドライバー・ガイドをお読みいただけることをとても嬉しく思います。

運転免許認可局 (DOL) の使命は、あらゆる人と協力してワシントン州をさらに安全にすることです。これを達成する方法のひとつは、州内の道路やハイウェイを利用する 500万人近くに及ぶドライバーに対する教育と慎重な免許の交付です。

車の運転は生活に欠かせない重要な要素ですが、車の所有と運転免許の保持は責任を伴う特権です。このガイドには、ワシントン州で運転する人すべてに適用される法律、規則、および運転技術が要約されています。

シートベルトを必ず着用し、制限速度を守り、また飲酒運転や薬物影響下での運転は決してしないでください。交通法規を守り、他のドライバーを尊重することで、路上の安全を確保することができます。

DOLのサービスに関する詳細は、www.dol.wa.govをご覧ください。

安全運転を願って

Liz Luce
局長

目次

| | |
|---------------------------|----|
| 運転免許証 | 1 |
| ワシントン州の住民..... | 1 |
| 新規住民..... | 1 |
| 非居住者と滞在者..... | 1 |
| 運転免許証の種類..... | 2 |
| 運転免許証の取得..... | 3 |
| 身分証明および住所証明..... | 7 |
| 視力検査および身体検査..... | 7 |
| 筆記試験..... | 7 |
| 路上試験..... | 8 |
| 写真..... | 9 |
| 運転免許証の更新..... | 10 |
| 運転免許証の再発行..... | 10 |
| 住所または氏名の変更..... | 11 |
| 運転免許証を保持するには..... | 11 |
| 出頭拒否..... | 13 |
| 性犯罪者の登録..... | 13 |
| その他の認可サービス..... | 14 |
| 運転する前に | 15 |
| 保険加入の義務..... | 15 |
| 車両の点検..... | 16 |
| 積み荷を固定する..... | 19 |
| ガラスの表面をきれいに保つ..... | 19 |
| シートとミラーを調節する..... | 20 |
| シートベルトとチャイルドシートを使用する..... | 21 |
| 交通規則 | 23 |
| 交通管理装置..... | 23 |
| 信号..... | 23 |
| 交通標識..... | 24 |
| 車道上のマーク..... | 31 |
| ラウンドアバウト..... | 33 |
| リバーシブル車線..... | 34 |
| 専用車線..... | 34 |
| 両方向道路での左折車線..... | 35 |
| 一般的な規則..... | 35 |
| 通行権..... | 39 |

| | |
|---------------------------|-----------|
| 駐車 | 43 |
| 坂道での駐車 | 43 |
| 縦列駐車 | 44 |
| 安全運転のヒント | 47 |
| 発進 | 47 |
| アクセル | 47 |
| ハンドルの切り方 | 47 |
| スピード違反と制限速度 | 48 |
| 停止 | 49 |
| 良く見えること | 49 |
| ドライバーの注意散漫 | 50 |
| スキャンする（さっと見る） | 51 |
| ライトをつける | 58 |
| 他のドライバーに自分の存在を知らせる | 59 |
| 何をしようとしているかを知らせる | 62 |
| 道路の状態に合わせる | 64 |
| 交通の流れに合わせる | 66 |
| 周囲がどれほどよく見えているか | 68 |
| スペースを共有する | 71 |
| 前方のスペース | 71 |
| 後方のスペース | 73 |
| 左右のスペース | 73 |
| 合流するときのスペース | 75 |
| 交差または進入時のスペース | 75 |
| 追い越しに必要なスペース | 76 |
| 自転車とのスペース | 78 |
| 特殊な状況でのスペース | 83 |
| 良好な健康状態で運転する | 85 |
| 視力 | 85 |
| 聴力 | 87 |
| 疲労 | 87 |
| 飲酒運転 | 88 |
| 飲酒運転はなぜ大変危険なのか | 88 |
| 飲酒したら、いつ運転できるのか | 89 |
| アルコールと法律 | 89 |
| 執行猶予下での免許証 | 91 |
| 執行猶予 | 91 |
| 薬物と運転 | 92 |
| 青少年のアルコール/麻薬/銃器携帯違反 | 93 |

| | |
|--------------------------|------------|
| 健康状態 | 93 |
| 感情 | 94 |
| 路上での怒り | 94 |
| 緊急事態 | 95 |
| ブレーキの故障 | 95 |
| タイヤのパンク | 95 |
| 電気系の故障 | 96 |
| ヘッドライトの故障 | 96 |
| アクセルペダルが踏んだまま上がらない | 96 |
| 衝突を避ける | 96 |
| 速やかに停止する | 97 |
| 速やかに方向転換する | 97 |
| 加速 | 98 |
| 横滑りの対処 | 98 |
| 衝突の際の自己防衛 | 99 |
| 衝突 | 100 |
| 衝突事故現場で | 101 |
| 負傷者が出たら | 101 |
| 衝突事故の報告 | 102 |
| 車両認可 | 103 |
| 登録 | 103 |
| 持参するもの | 103 |
| 車両所有者証明書（権利証書） | 104 |
| 売却の報告 | 105 |
| ナンバープレート | 105 |

本ガイドは、法的要求や訴訟の根拠として使用することはできません。郡市町の交通規則が州法より優先することがありますが、州法と矛盾しないことが条件となります。自動車の運転および運転免許証に関する特定の法律に関心がある場合は、RCWのタイトル 46、自動車 (Title 46 RCW, Motor Vehicles) を参照してください。注意してお読みください。

書面によるコメントや提案を歓迎いたします。下記の住所までお送りください。

Driver Examining
Department of Licensing
PO Box 9030
Olympia, WA 98507

DOLのウェブサイトwww.dol.wa.govをご覧ください。

運転免許認可局の方針は、サービスへの公平なアクセスを提供することです。特別な待遇が必要な場合は、(360) 902-3900またはTTY (360) 664-0116までお電話ください。

運転免許証

ワシントン州の公道で自動車、自動二輪車、モペット、モーターで動く自転車を合法的に運転するには、有効な運転免許証が必要です。

ワシントン州の住民

公道で車を合法的に運転するには、ワシントン州の住民はワシントン州の運転免許証を取得しなければなりません。下記にあてはまる場合は、ワシントン州の住民とみなされます。

- ワシントン州で有権者登録をしている人。
- 州または地方政府から支払いや経済的援助、その他の公共の福祉給付金を受けている人。
- 住民の料金で州のいずれかの免許を受けている人。
- 学生として州内住民の料金で授業料を支払っている人。
- 州内に1年のうち6ヶ月以上居住する予定の人。

新規住民

ワシントン州の住民になってから30日以内に州の運転免許証を取得しなければなりません。

ワシントン州の運転免許証を申し込む時点で、所持している州外の運転免許証が有効な場合は、筆記試験または路上試験を受けずに済む場合があります。18歳未満の場合は、DOLがインターミディエート運転免許証を発行する前に、ワシントン州の基準を満たす自動車運転教習を修了した証明書を提示しなければなりません。自動車運転教習の条件に関する詳細は、www.dol.wa.govをご覧ください。

非居住者と滞在者

ワシントン州の住民ではない場合、あるいは短期的な滞在者の場合は、居住する州、行政区、自治領、または国によって交付された有効な運転免許証を保持し、16歳以上であればワシントン州内で運転することができます。これには以下の人が該当します。

- 現役勤務中の軍人、または外国軍隊に属しているが一時的に米国軍隊勤務中の軍人、およびその配偶者と子供。
- ワシントン州で教育を受けており、授業料に関して非ワシントン州住民の取り扱いを受ける学生。
- ワシントン州において事業経営の認可を受けている会社の従業員で、短期的な職務訓練を受けている人、またはその職務訓練の講師。
- 外国人観光客、外国人教師、または外国の事業関係者でワシントン州に1年以内滞在する人。

運転免許証の種類

仮運転免許証 - この許可証を持っていると、最低5年間の免許を受けた運転経験があり、有効な運転免許を持つドライバーの監視下であれば、ワシントン州内で車を運転できます。運転免許を持つドライバーは、前の右側の席に同乗していません。

ワシントン州の仮運転免許証は、他の州では有効とならない場合があります。

インターミディエート運転免許証-16歳または17歳で所定の条件を満たす場合、青少年が少しずつ運転の責任を負うことができるように制約が設けられたインターミディエート運転免許証が発行されます。

基本運転免許証-この運転免許証を所持していれば、公道で自動車を運転できます。免許の有効期間は、取得日の前の誕生日から5年間です。16歳もしくは17歳の人には、まずインターミディエート運転免許証が発行されます。

エンハンスド運転免許証-エンハンスド運転免許証は、陸上または海上国境で米国に再入国する際にパスポートの代替身分証明書として発行されます。詳しい情報は、DOLのウェブサイトをご覧ください。DOLの各事務所に用意されているエンハンスド運転免許証および身分証明書に関する小冊子をご覧ください。

自動二輪車または自動三輪車の仮運転免許証および認証-これらの免許証を所持していれば、自動二輪車または自動三輪車が基礎となった車両を公道で運転できます。詳しくは、DOLのウェブサイトまたは免許交付事務所で入手できる自動二輪車ドライバー・マニュアル (Motorcycle Operator Manual) またはサイドカー/トライク・ドライバー・マニュアル (Sidecar/Trike Operator Manual) をご覧ください。

商用車両仮運転免許証 (CDIP) および商用車両運転免許証 (CDL) -これらの免許証を所持していると、公道で商用車両を運転できます。詳しい情報は、DOLのウェブサイトまたは免許交付事務所で入手できる商用ドライバー・ガイド (Commercial Driver Guide) をご覧ください。

運転免許証の取得

仮運転免許証または運転免許証は、免許交付事務所で取得できます。免許交付事務所は、全ワシントン州内に60ヶ所以上あります。事務所によっては試験が受けられない所もあるため、訪れる予定の事務所が必要な試験が受けられることを事前に確認してください。DOLのウェブサイトまたは電話帳の政府機関の項の「Licensing, Department of (免許交付、部門)」で最寄の事務所を確認してください。

仮運転免許証を取得するには、次の条件を満たさなければなりません。

- 最低でも15歳6ヶ月に達していること。
- 筆記試験、視力検査、および身体検査に合格すること。
- 仮運転免許証の手数料として20ドルを支払うこと。

18歳未満の申請者には、申し込みの際に保護者または後見人が同伴すること。保護者または後見人は、身分証明書および申請者との続柄を証明する書類を提示し、保護者認可宣誓書 (Parental Authorization Affidavit) に署名しなければなりません。名字が異なる場合は、続柄を証明する追加書類が更に必要となります。仮免許証は1年間有効で、1回だけ更新することができます。

公認の自動車運転教習を受講中であれば、15歳であっても仮運転免許証を取得できます。公認の自動車運転教習を受講中であることを証明できる仮運転免許証申請書を持参すれば、筆記試験を受けずに仮運転免許証を取得できます。ただし、運転免許試験の際にはその一部として筆記試験を受けなければなりません。

インターミディエート運転免許証を取得するには、次の条件を満たさなければなりません。

- 最低16歳であること。
- 最低30時間の学科教習と6時間の車上教習を行う公認の自動車運転教習を修了した証明書類を提示すること。
- 保護者または後見人の承認を得ること。
- 視力検査および身体検査、筆記試験、および路上試験に合格すること。
- 最低6ヶ月間、仮運転免許証を所持していること。
- 最低5年間の免許を受けた運転経験があり、有効な運転免許を持つドライバーの監視下での運転経験が、10時間の夜間運転を含めて50時間以上あることを示す保護者または後見人の証明書を提示すること。
- 交通違反のチケットを発行されたことがない、または免許証の申請時に保留の交通違反チケットがないこと。
- 免許証の申請前6ヶ月間に、交通違反の有罪判決および摘発を受けていないこと。
- 仮運転免許証を保持している期間にアルコールまたは薬物の使用に関する不法行為の有罪判決および摘発を受けていないこと。
- ソーシャル セキュリティ (Social Security) 番号を提出すること。この番号は、運転免許証を申請した時点で確認されます (42 USC 405 および 666(a) (13), RCW 26. 23. 150)。ソーシャル セキュリティ番号が発行されていない場合は、ソーシャル セキュリティ番号申告用紙に署名します。

インターミディエート運転免許証には、次のような運転制限が適用されます。

- 保護者、後見人、または25歳以上の運転免許証を所持する成人が同乗していない場合は、午前1～5時の時間帯に運転することはできません。
- 最初の6ヶ月間は、近親者以外の20歳未満の人を同乗させることはできません。
- その後の残りの期間も、近親者以外の20歳未満の人を3名より多く同乗させることはできません。

1年目には厳しい罰則が設けられています。

- 初回の違反 - 同乗者および夜間に関する運転制限が18歳まで延長され、運転制限の違反切符または他の道路交通法の違反切符を切られた場合、あるいは交通事故に関わった場合で以下に該当する場合は、本人と本人の保護者または後見人に警告書が送付されます。
 - 違反切符を切られた場合
 - 交通事故の原因があなたにあると判断された場合
 - 事故の当事者の誰にも違反切符が切られなかった場合
 - 事故の原因があると判断された人がいなかった場合
 - 事故に遭遇した車両があなたの車両だけである場合
- 2回目の違反 - 6ヶ月間（18歳になるのがそれより先の場合は18歳になるまで）運転免許証が停止されます。
- 3回目の違反 - 18歳になるまで運転免許証が停止されます。

運転免許証停止の措置が取られる場合は、その前に本人および本人の保護者または後見者に通知が送られます。

18歳の誕生日に、インターミディエート運転免許は制限条件のない基本免許に変更されます。免許交付事務所に行き、免許変更手続きを行う必要はありません。

基本運転免許証を取得するには、次の条件を満たさなければなりません。

- 最低18歳であること。
- 受け付け可能な身元と年齢の証明書を提示できること。
- ソーシャル セキュリティ (Social Security) 番号を提出すること。この番号は、運転免許証を申請した時点で確認されます (42 USC 405 および 666(a) (13), RCW 26. 23. 150)。ソーシャル セキュリティ番号が発行されていない場合は、ソーシャル セキュリティ番号申告用紙に署名します。
- ワシントン州在住の住所を示す受け付け可能な証明書を提示できること。
- 筆記試験費用として20ドルを支払うこと。これは支払い後90日間、1回分の筆記試験に有効です。筆記試験に合格すると、追加料金なしで路上試験を1回受けることができます。
- 視力検査および身体検査、筆記試験、および路上試験に合格すること。
- 他の運転免許証をすべて提出すること。
- 所持している運転免許証が現在停止、抹消、または取り消されていないこと。
- 免許証代として25ドルを支払うこと。

最初の運転免許証は、完全な身分証明を行わずに取得することができます。ただし、正式な氏名と生年月日を証明する書類を提示しなければなりません。完全な身分証明が行われるまで、運転免許証には「Not Valid for Identification (身分証明書としては無効)」が記されます。

身分証明および住所証明

DOLの身分証明条件は複雑です。身分証明およびワシントン州在住の住所証明に使用できる受け付け可能な書類の例は、「身分証明および住所証明 (Identification and Residence Requirements)」に関する小冊子をご覧ください。この情報はwww.dol.wa.govからも入手できます。

視力検査および身体検査

運転免許証発行の前に、視力検査が行われます。視力矯正レンズを着用しなければ、視力が運転免許基準に満たない場合は、運転免許証には矯正レンズ着用が制限が設けられることがあります。また、自動車を運転する能力に支障を来すような精神的あるいは身体的な状態であるかどうか、または支障を来すような薬を服用しているかが質問されます。その場合、運転免許証申請処理の前に、眼科または医療専門家による検査を義務付けられる場合があります。

筆記試験

交通標識、交通法規、および安全運転の理解を確認するために筆記試験を行います。この試験に合格するために必要なすべての情報はこのガイドに記載されています。特別な待遇が必要な場合を除き、筆記試験は免許交付事務所にある簡単なコンピュータを使って行われます。多項選択式の質問が全部で25問あります。試験に合格するには20問以上の正解が必要です。合格した試験の得点は2年間有効です。筆記試験の予約は必要ありませんが、事務所の閉所時間の遅くとも30分前までに、試験を始めなければなりません。

路上試験

路上試験は、公道で法規に従い安全に運転する能力をテストします。DOLの担当職員が同乗して、車両が安全に運転できるものであること、受験者が車両のコントロールを保てること、受験者が交通規則に従うことができることを確認します。受験者を混乱させたり、惑わせたり、違法行為を要求するようなことはありません。試験前の質問はかまいませんが、試験開始後は、不必要な会話は試験の妨げとなります。試験の始めから終わりまで、受験者の運転に点数が付けられます。

路上試験を受けるには、次の条件を満たさなければなりません。

- まず筆記試験に合格すること。
- 試験用の車両を用意すること。車両は、合法的に認可および登録され、また装置に欠陥があってははいけません。試験の開始前に、ブレーキ、ブレーキライト、方向指示器、タイヤ、シートベルト、ワイパーの点検が行われます。
- 受け付け可能な自賠責保険の証明書、例えば、保険加入者の氏名または車両の説明および保険加入期間を示す保険会社カードまたは保険証券を提示してください。

路上試験中は、受験者、DOLの職員、介助動物、ろうあ者または難聴者の手話通訳士のみが車に同乗できます。外国語通訳者、保護者、子供、ペットは同乗できません。

路上試験中は、次を行います。

- 指示された場合はハンドシグナルを行います。試験中は自動方向指示器を使用してかまいません。ハンドシグナルは、運転する自動車の方向指示器が他のドライバーから見えない場合に使用しなければなりません。シグナルは、周辺に誰もいなくてもかならず使用します。

- バックの際は、後ろを向いて、後方に自動車や歩行者がいないことをしっかり確認します。リアウインドウからの視界がさえぎられている場合は、サイドウインドウまたはサイドミラーで確認します。安全にバックできることが確認できるまで、車をバックさせてはいけません。
- 一時停止の標識や信号では、必ず完全に停止します。横断歩道上や一時停止線を越えたところで停止してはいけません。

初めてワシントン州の運転免許証を申請する場合は、筆記試験に合格し、居住証明書を提出した後に路上試験を予約することができます。路上試験時間の15分前に到着するようにします。指示されている場合は、到着したことを事務所の職員に伝えてください。路上試験に不合格となった場合、通常は最低1週間練習してから、再度試験を受けることができます。

写真

新しい運転免許証、仮運転免許証、または身分証明書には、所持者の正面顔写真が入ります。写真を撮影する前に、顔や頭を覆うもの（帽子やサングラスなど）をすべて取り外してください。取り外さなかった場合は、カードに「Not Valid for Identification（身分証明書としては無効）」が記されます。医療上および宗教上の理由がある場合は例外とします。

運転免許証の更新

更新した免許の有効期間は5年間で、誕生日に失効します。更新は、運転免許交付事務所に実際に出頭する場合は失効日の1年前から、あるいはオンラインまたは郵送の場合は失効日の60日前から、または失効日後30日まで行うことができます。免許証の失効日の6週間前に更新通知が郵送されます。更新通知には、オンラインまたは郵送で更新できるか、または運転免許交付事務所に実際に出頭して申請する必要があるかが記載されています。運転免許交付事務所で更新する場合は、現在使用中の運転免許証、またはその他の身分証明となる書類を持参してください。コンタクトレンズや眼鏡を使用している場合は、視力検査のために必ず持参してください。筆記試験や路上試験の受験が必要となる場合もあります。

自動二輪車運転免許証または商用車両運転免許証（CDL）の認証を所持している場合は、25ドルの更新手数料のほかに追加料金を支払います。

免許失効後60日以上が経過してから更新すると、25ドルの更新手数料のほかに、10ドルの遅延料が科されます。

運転免許証の再発行

免許証の紛失、盗難、破損、あるいはその記載内容が判読困難になった場合は、免許交付事務所にて再発行の申請を行うことができます。その際、身分証明書類を提示し、手数料15ドルを支払わなければなりません。

個人情報盗難や不正使用に関する情報はDOLのウェブサイトをご覧ください。

18歳未満の場合、免許証再発行を許可する保護者または後見人の署名が必要です。名字が異なる場合は、続柄を証明する追加書類が更に必要となります。

住所または氏名の変更

次のことを行った場合は、その10日以内にDOLに届けなければなりません。

- 住所の変更。
- 法律上の氏名の変更。

氏名の変更は、新しい氏名を証明できる書類と、本人の出頭が必要です。住所の変更は、氏名、生年月日、運転免許証番号、および新住所を明記して郵送すれば、無料で行うことができます。新しい住所または氏名が記載された書類の発行を受けるには、免許交付事務所に出席して、10ドルを支払う必要があります。

また、永久の郵送先住所がある場合は、記録に必須の現住所と並記することもできます。郵送先住所が並記されている場合は、運転免許証、身分証明書、または仮運転免許証は郵送先住所に送付されます。

運転免許証を保持するには

運転免許証を保持するには、常に安全運転を行わなければなりません。運転免許証を失う原因には次のものが挙げられます。

- アルコールまたは薬物の影響下で車両を運転、あるいは物理的に車両を操縦できる状態にいた。
- 警官に酒気または薬物検査を受けることを求められた際、それを拒否した。
- 自分が関わった衝突事故の現場を身分証明を行わずに離れた。
- 運転免許証の申請にあたって事実とは異なる情報を提示した。
- 自動車保険に入っていないときに、衝突事故に遭遇した。保険に入らないで衝突事故に遭遇した運転者は、最高3年までの運転免許証停止処分を科されることがあります。また、衝突事故の結果起こされた民事裁判による損害賠償の支払いを怠ると、13年以上の免許証停止処分となることがあります。

- 要請された再試験を受験しなかった。
- 自動車を用いて重罪を犯した、または車両の衝突事故で死亡者を出す原因となった。
- 運転記録に残る交通違反を多々犯した（交通違反常習者）。
- 無謀な運転または無謀に路上作業者を危険にさらした。
- 競争や車両を使った暴行または殺人を犯した。
- パトカーの追跡から逃れた。
- ガソリン代を払わずにガソリンスタンドを立ち去った。
- 交通召喚状または交通違反通知（Notice of Infraction）に対し、出頭または応答を怠った。
- 免許証が停止、無効、取り消し、または拒否されている間に車を運転した。
- 偽名、誤った情報、または不正な変更のある免許証を所持していた。
- 他人に免許証を貸した、または他人の免許証を使っていた。
- ワシントン州の免許証の停止中に他州交付の免許証を使っていた。
- インターミディエート免許で運転中に2回以上の交通違反を犯した。
- 捏造、架空、虚偽、改造された、または情報が空白の運転免許証または身分証明書、または非合法に発行された免許証または身分証明書の製造、販売、あるいは受け渡しを行った。

出頭拒否

出頭拒否 (Failure to Appear、FTA) とは、交通違反や刑事召還に対して、出頭しない、指示に従わない、応答しない、または償いを行わないことです。

違反チケットを受け取った場合、そのチケットの裏面に、指示に従う方法が記載されています。 チケットが発行された日から15日以内に指示に従わない場合、裁判所はDOLに通知し、DOLからあなたへ運転免許の停止処分通知が送られます。その後45日以内に指示に従わない場合、運転免許証が停止されます。ただし、裁判所での審理を要請する権利もあります。45日以内に指示に従えば、運転免許が停止されることはありません。

指示に従わなかった場合、運転免許証は停止され、運転してはいけません。運転免許停止中に運転していることが見つかった場合は、逮捕され、車両を押収される可能性があります。

2005年7月1日以降の交通違反について出頭拒否をした場合、どのような免許証も発行されなくなります。運転免許停止の後の免許証の再発行には、他の免許証交付料のほかに75ドルが科されます。飲酒運転による運転免許停止の場合、他の免許証交付料のほかにさらに再発行料として150ドルを支払う必要があります。

性犯罪者の登録

ワシントン州法により、矯正局は、ワシントン州在住者で性犯罪の摘発を受けた、またはその有罪判決を受けたことがある人物について、郡の保安官に通知することが義務付けられています。このような人は、在住する郡の保安官に登録しなければなりません。登録を怠ると、結果として刑事訴追につながる場合があります。詳しくは、郡保安官までお問い合わせください。

その他の認可サービス

身分証明書-自動車を運転しない人に対し、20ドルで顔写真付きの身分証明書を発行しています。運転免許証申請と同様の身分証明書を提示しなければなりません。

有権者登録 - 以下の条件を満たしていれば、どの免許交付事務所でも投票のための登録を行うことができます。条件：

- 現在公民権が取り消されていない米国市民であること。
- ワシントン州の住民であること。
- 最低18歳であること。

引越しの際には、DOLに住所変更届を出す際、同時に有権者登録を変更できます。

臓器提供プログラム - 臓器提供プログラムへの参加を希望する場合は、DOLに通知してください。運転免許証には臓器提供者のシンボルが記載されます。提供者の情報は、その意思が確実に遂行されるように、臓器提供者登録簿に掲載されます。詳細は、ライフセンター・ノースウエスト (LifeCenter Northwest、1-877-275-5269) まで電話で問い合わせるか、登録簿ウェブサイト (www.donatelifetoday.com) をご覧ください。

運転記録の写し-DOLはワシントン州のドライバーについて、免許申請、衝突事故、交通違反、車両違反の有罪判決、衝突事故への関与、出頭拒否の記録を保存しています。DOLは、ドライバー本人、保険業者、雇用者、およびドライバーが交通手段を提供しているボランティア団体などに、手数料10ドルで記録の写しを提供することができます。

運転する前に

あなた自身の安全と公衆の安全は、シートやミラーの調節、シートベルトの着用、車両の点検、ドアのロック、視界を邪魔するものがない状態を維持すること、車両内または外部に積載したものを固定するなど、運転する前のあなたの行動に左右されることがあります。

保険加入の義務

ワシントン州で登録してある車両を運転するには、自賠責保険に加入し、加入証明書を所持していなければなりません。政府所有の車両、自動二輪車、一般または契約運輸業者の車両を運転するドライバーには、この保険に加入する義務はありません。

以下に示す内容を提供する、州公認保険会社または保証業者の、自動車損害賠償責任保険または保証に加入しなければなりません。

- 衝突事故により、1人の身体の傷害または死亡が起こった場合、支払額25,000ドル以上。
- 1件の衝突事故により、2人以上の身体の障害または死亡が起こった場合、支払額50,000ドル以上。
- 1件の衝突事故により、相手側の所有物を損傷または破壊した場合、支払額10,000ドル以上。

車両の点検

運転する車両の安全性は、ドライバー自身の安全の第一歩であり、運転する車両が安全に操作するかを確認するのはドライバーの義務です。正しく作動しない車両は危険な上、よく維持されている車両よりも走行費がかかります。路上で故障してしまったり、衝突事故を引き起こすことがあります。車両が正しく作動しなければ、緊急事態を回避できないかもしれません。正しく作動する車両なら、必要なときに、より高い安全性が得られます。

車両の操作マニュアルの指示に従い、定期的にメンテナンスを行なってください。メンテナンスには、自分でできる作業や、資格のある修理工が行なわなければならない作業もあります。簡単なチェックを行なうことにより、路上のトラブルを防止することができます。

ブレーキ - ブレーキだけがあなたの車両を停止できます。正しく作動しないブレーキは非常に危険です。正しく作動していないようであったり、大きな音を出す、へんな匂いがする、またはブレーキペダルを踏むと床に届いてしまうなどの場合は、修理工にチェックしてもらいます。

ライト - 方向指示器、ブレーキライト、テールライト、ヘッドライトが正しく点灯することを確認します。これらのライトは、車両の外に出て確認すべきです。ブレーキライトは停止することを、方向指示器は右折/左折することを、他の道路利用者に知らせます。1993年以降に製造された乗用トラック、乗用車、バン、スポーツ用多目的車（SUV）には、車両後部中央の高い部分に3番目のブレーキライトが装備されていなければなりません。

ヘッドライトの位置がずれていると、正しく前を照らすことができず、また他の車両のドライバーにとってまぶしく、視界をさえぎるおそれがあります。夜間視界が良くないと思うとき、また他のドライバーが頻繁にヘッドライトを点滅させて合図を送ってくるのであれば、修理工にヘッドライトをチェックしてもらいます。

フロントガラスとワイパー - 損傷のあるガラスは、軽い衝突やフロントガラスに物が当たった際、割れやすくなるため、補修や取り替えを行います。

フロントガラスのワイパーは、雨や雪をぬぐうものです。リアウインドウやヘッドライトにワイパーの付いている車両もあります。ワイパーがすべて正しく作動するよう確認します。ブレードが水滴をよくぬぐえないときは、新しいものと交換します。

タイヤ - 使い古したタイヤや踏み面の刻みが擦り減ったタイヤは、路面がぬれていると停止するまでの距離が長くなり、右折/左折も困難になります。バランスの取れていないタイヤ、圧力の低いタイヤは擦り減りを早め、燃費が悪くなる上、運転が困難になり、停止しにくくなります。車両がはずむようであったり、ハンドルがガタガタしたり、走行中まっすぐ走行せず左右どちらかに傾く場合、修理工にチェックしてもらいます。

使い古したタイヤは、ハイドロプレーニングの原因になったり、パンクする可能性も高くなります。タイヤの溝を1セント銅貨で調べます。銅貨の頭部から溝に差し込みます。溝の深さがリンカーンの頭のところまで (2/32インチ) なければ、タイヤは違法で、安全ではないので新しいタイヤと交換する必要があります。

タイヤの温度が低い時に、圧力計で圧力を測ります。車両の操作マニュアルを見て、適切な圧力を調べます。

ハンドル - ハンドルが正しく作動しなければ、進みたい方向に車両をコントロールするのは困難です。一度ハンドルを切ってもその方向に曲がりにくいとき、もしくは曲がれないときは、修理工にハンドルをチェックしてもらいます。

作動中は車両の鍵を「ロック」位置に入れないで下さい。車輪がロックされ、ハンドルを回そうとしても車両をコントロールできなくなります。

サスペンション システム - この装置は、車体をコントロールしやすく、さまざまな種類の道路表面に対しても、快適な乗り心地を与えてくれるものです。路上の隆起を越えた後や停止後に弾みが止まらないとき、またコントロールが困難な場合は、新しい緩衝装置かサスペンションの部品が必要かもしれません。修理工にチェックを依頼します。

排気装置 - 排気装置はエンジンからのノイズを下げ、エンジンから出る高温ガスの冷却を助け、このようなガスを車両の後部に移動させます。排気装置に漏れがあると車内にガスが流れ込み、短時間で死亡する可能性があります。ドアを閉めたガレージ内では、決してエンジンをかけたままにはいけません。エンジンがかかった状態の車内に長時間いる場合は、窓を開けます。

排気装置からの漏れは聞こえるものもありますが、多くの場合は聞こえません。このため、排気装置は定期的に点検することが重要です。

エンジン - 正しく作動しないエンジンは、通常時および緊急時に必要なパワーを失う、エンジンがかからない、燃費が低下する、大気汚染の元になる、路上でエンストを起こして問題を起こすなどの可能性があります。メンテナンスは、操作マニュアルで推奨される手順に従います。

クラクション - クラクションは安全性にはあまり役立たないと思えるかもしれませんが、警告装置として、あなたの命を救うことができます。他の人への警告としての使用にとどめておいてください。

固定されていない物 - 車両が急停止したり追突事故が起こったりした際、食料品やかばんなど、固定されていないものは、危険物となり得ます。固定されていない物は車両の収納用の空間やトランクに入れます。それができない場合は、どこかに固定します。足元や座席の下には、ペダルの下へ転がったり、運転の邪魔になるような物が何も無いことを確認します。

ごみ - ごみの投げ捨てには高い罰金が科せられます。ドライバー及び同乗者は紙くず、ガラス、プラスチック、危険物となる可能性のある物は全ていつも適切に処分してください。

積み荷を固定する

ワシントンの公道を運転する前には、運搬する積み荷を全て車両内またはトレーラー内に固定しなければなりません。積み荷及び積み荷を覆う物や固定するために使った物もしっかりと固定し、それらが緩んで道路を利用する他の人にとって危険にならないようにします。積み荷がしっかりと固定されている事を時間をかけて確認すれば、人に危害を加えたり、高い罰金を払わずに済みます。

積み荷を車両内またはトレーラー内に固定するには：

- ロープ、ネット、またはストラップで縛り付ける
- 大きな物を直接車両またはトレーラーに縛る
- 積み荷全体を丈夫なシートやネットで覆うことを考える
- 車両またはトレーラーに積み過ぎない
- しっかりと固定されているか再度確認する

地域によっては、より厳しい法律がありますので、あなたの地域の規則を確認しておくようにしてください。

ガラスの表面をきれいに保つ

ウインドウ、フロントガラス、ミラーから外がはっきり見えるようにしておくことが重要です。次の事柄を実行してみてください。

- フロントガラスをきれいに保ちます。明るい陽射しやヘッドライトが汚れたフロントガラスにあたると、前が見えにくくなります。液体クリーナーとペーパータオルまたは布を常時用意して、いつでもフロントガラスを掃除できるようにしておきましょう。
- ウインドウ用洗浄液を常にボトル一杯にしておきます。温度が零度以下になるところでは、不凍洗浄剤を使用します。
- 車内で喫煙する人がいる場合は、特にウインドウの内側もきれいに保ちましょう。たばこの煙でウインドウの内側表面に膜ができます。

- 運転する前に、雪や氷、霜をすべてのウインドウから取り除きます。
- ミラーに物を吊るしたり、フロントガラスにステッカーをゴテゴテ貼ったりしてはいけません。視界を妨げる原因になります。
- ヘッドライト、バックアップライト、ブレーキライト、テールライトをきれいにおきます。表面が汚れていると、光が50パーセント遮断されてしまいます。

シートとミラーを調節する

運転の前に、常にシートとミラーの位置を確認し、調節します。

- 視界がさえぎられたり、車両のコントロールの邪魔になるようなら、前部座席に3人より多くの人を乗せて運転してはいけません。前後左右がはっきり見え、コントロール部品にすぐ手が届くこと、またドライバーがハンドルを握ったとき、少なくともハンドルの1/3が両手の間にあるようにします。
- シートは、道路がはっきり見える高さに調節します。必要ならクッションを敷きます。ハンドルが切りにくくなるほど、シートを前に移動させ過ぎないでください。衝突したときに、エアバッグが胸のあたりに当たるように座ります。また、足がブレーキペダルの下に床にさわられるように座ります。
- バックミラーとサイドミラーを調節します。バックミラーでリアウインドウが見えなければなりません。サイドミラーは、少し前向きにかがむと車体の側面が少し見えるように調節します。こうすることで、あなたの車の後ろの交通状況が見やすくなります。
- 日中/夜間用ミラーを装着してある場合は、運転するときの時間帯に合わせてセットしてあることを確認します。
- ヘッドレストは、後部を追突された時にむちうちを防止するためのものです。後頭部に接触するよう、ヘッドレストを調節します。

シートベルトとチャイルドシートを使用する

ワシントン州では、ドライバーおよび同乗者のシートベルト着用が法律で定められています。運転の前に、あなたがシートベルトを着用しており、同乗者も全員シートベルト、あるいはチャイルドシートかブースターシートを正しく使用していることを確認してください。ドアをロックすることも忘れないでください。

ドライバーや16歳未満の同乗者がシートベルトを着用していなかったり、チャイルドシートもしくはブースターシートを使用していなかったりした場合、罰金はドライバーの責任になる場合があります。16歳以上の同乗者がシートベルトを着用していない場合、罰金は、同乗者の責任です。

更に、法により次の事柄が義務づけられています。

- 1964年1月以降製造の全種類の車両で、ワシントン州で登録している車両には、前部座席にラップタイプのシートベルトが装備されていること。
- 1968年1月以降に製造された乗用車および1972年1月以降に製造されたトラック/多目的乗用車には、すべての座席にラップおよびショルダーベルトまたはラップベルトが装備されていること。
- 1976年1月以降に製造されたバン、モーターホーム、キャンパー積載のシャシーを運ぶ車両には、全ての座席にシートベルトが装備されていること。

あなたの車両に装備されているシートベルトが2つの部分からなるものなら、両方を必ず、適切に着用し、ショルダーベルトは脇の下や背中の後ろではなく、肩にかかるようにします。ラップベルトは下腹ではなく腰の周りにしめなくてはなりません。どちらか一方しか着用していなければ、防護性が大幅に低下します。ショルダーベルトがオートマチックの場合、必ずラップベルトも装着します。ラップベルトを着用していないと、衝突が起きた際にショルダーベルトから滑り出てしまい、負傷または死亡することがあります。

ドライバーはシートベルトの着用により傷害をさけるだけでなく、車両のコントロールの維持がたやすくなります。横から衝突された場合や急なカーブを切った際、体が横にすべってしまうことがあります。ハンドルの前に座っていないと、ハンドルを切ることができません。

エアバッグが装備されている車両でも、必ずシートベルトは装着してください。エアバッグは、ハンドル、フロントガラス、ダッシュボードに叩き付けられるのを防ぐ一方、横や後部から追突されたり、車両が横転したりする際には役立ちません。また、このような状況下で、ハンドルの前に座っているような保護もできません。

13歳未満の子供は、後部座席がある場合は、そこでシートベルトを着用しなければなりません。8歳未満で身長が4フィート9インチ未満の子供は、適切なチャイルドシートに正しく座らなければなりません。

子供の安全な乗車についての詳細は、1-800-BUCK-L-UPに電話でお問い合わせください。

調査によると、事故の際シートベルトを着用していた場合は、負傷または死亡する可能性は大幅に減少します。

交通規則

いつ、どこで、どれくらいの速度で運転できるかを示す交通規則があり、交通安全の維持に役立っています。このような規則には、交通管理装置、通行優先権、駐車規則などがあります。

交通管理装置

交通管理装置には、信号、標識、車道上のマーク、ラウンドアバウトなどがあります。法執行機関、ハイウェイ道路工事作業員または整備作業員、学校横断監視員なども交通管理を行なうので、このような人員の指示に従わなければなりません。

信号が故障している場合には、止まって、四方一旦停止の場合と同じように、通行権を譲らなければなりません。安全が確認できた時だけ、または警察官、消防士、交通誘導員などの指示がある時にだけ進みます。

信号

信号は、いつ、どこで停止し、進行できるかを示す電灯です。青信号では、安全であれば進行できます。黄色の信号は注意を意味し、赤信号は停止を意味します。

通常、信号は交差点にあり、上から下へ、または左から右に向かって赤、黄、青の順になっています。場所によっては、青か、黄か、赤の信号が1つだけある所もあります。

青信号では、交差点へ進入できますが、緊急車両やその他法律で義務づけられている車両には、通行権を譲らなければなりません。停止していて、信号が青になったら、進入は、交差点内の車両が通過するまで待たなければなりません。左折する場合は、安全を確認してからのみ、左折してかまいません。対向車に通行優先権があります。左折禁止の標識に注意してください。**青の矢印**は、矢印の方向に、安全に左折または右折できることを示します。青の矢印の時には、対向車や交差する車両はないはずで、左折/右折どちらの場合でも、あなたの車両の前を横断する歩行者に注意します。あなたの走行道路上（道路幅の半分で、あなたが走行している側）および、あなたの走行道路から1車線以内を歩行者が横断中であれば、停止しなければなりません。

点滅しない黄色の信号は、信号がまもなく赤に変わることを示します。安全に停止できるなら、停止しなければなりません。交差点に進入して信号が黄色になったら、停止せず通過しなければなりません。**点滅する黄色の信号**は、減速して注意しながら進行することを意味します。**黄色の矢印**は青の矢印が間もなく消えることを意味し、矢印の方向に曲がる場合は停止の用意をし、曲がる前に対向車に通行権を譲ってください。**点滅する黄色の矢印**は、左折はできますが、対向車と歩行者を優先しなければならぬことを意味します。

点滅しない赤信号は、停止を意味します。信号が青に変わり、交差する車両がなくなれば、発進してかまいません。右折する場合は、赤信号での右折禁止の標識がなければ、一旦完全に停止し、安全を確認して、右折してかまいません。また、道路の交通が左へ流れる一方通行の道へ左折する場合は、赤信号での左折禁止の標識がなければ、一旦完全に停止し、安全を確認して、左折してかまいません。あなたの車両の前を横断する歩行者に注意します。**点滅する赤信号**は一旦停止の標識と同じです。一旦完全に停止しなければなりません。停止後、安全を確認してから進入してかまいません。**赤の矢印**は、停止しなければならぬこと、またその矢印の方向に進入できないことを示します。赤の矢印が消え、青の矢印または青信号に変わると進入してかまいません。右折する場合は、赤の矢印での右折禁止の標識がなければ、一旦完全に停止し、安全を確認して、右折してかまいません。また、道路の交通が左へ流れる一方通行の道へ左折する場合は、赤の矢印での左折禁止の標識がなければ、一旦完全に停止し、安全を確認して、左折してかまいません。

交通標識

交通標識は交通規則、危険、現在地、目的地への行き方やさまざまなサービスの場所などを示します。標識の形と色によってその情報の種類を識別できます。このガイドブックの表紙の内側には、よく見る標識の形と色が載っています。

警告標識 - 通常この標識は黄色で、黒の文字またはシンボルが記されており、ほとんどがダイヤモンド型をしています。これらの標識は、減速したり、必要なら停止の準備をするよう促します。標識は、前方の急カーブ、特殊な状況、危険を警告します。よく見る標識は次のとおりです。



十字路



前方に一旦停止あり



前方にスピードゾーンあり



両方向道路



前方にゆずれ標識あり



車線終わり左車線に合流



事前に警告：自転車に注意



歩行者横断



児童横断



分離ハイウェイ(道路) 始まり



分離ハイウェイ(道路) 終わり



車線が増える



濡れると 滑りやすい



右側急カーブ



急な下り坂

踏切の警告標識 - 多くの踏切には、ドライバーに減速させたり、電車に通行優先権があることを警告する標識や信号があります。接近してくる電車の前を通り抜けようとしてはなりません。前方の車両がいなくなるまで、踏切を渡り始めてはいけません。踏切内で停止しなくても済むように、踏切の向こう側に渡りきれぬ十分なスペースができるまで待ちます。踏切横断中には、エンストを起こすかもしれないので、ギアをシフトしない方が賢明です。電車は大型で、見た目よりも実際の速度は速いかもしれないことを覚えておいてください。よく見る踏切の標識と信号を下に示します。

- 「X」のシンボルと黒字で「RR」と記されている丸型の黄色い警告標識は、踏切の手前の道路脇にあります。
- 白のX型の標識又は標識板で「Railroad Crossing (踏切あり)」と記されている標識は、踏切にあります。これは「ゆずれ」と同じ意味で、道路を横断する電車に通行権を譲らなければなりません。



- 踏切によっては標識板のほか、電車が踏切に接近している時に交互に点滅する、並んで付いている赤信号があります。信号が点滅しているときは、停止しなければなりません。また、電車が接近している時に遮断機が降りる踏切もあります。遮断機の横を摺り抜けて、踏切を渡ってはいけません。ベルや警笛の鳴る踏切もありますが、ベルなどが鳴り止むまで通過してはいけません。
- 複線の踏切では、線路の数を示す標識がよくあります。このような標識は、複線があり、複数の電車が通る可能性があることを警告しています。複線の踏切でもこのような標識がないところもありますから、渡る前に複線かどうか確認することが大切です。

低速度車両の標識 - 車両の後部に反射するオレンジ色の三角形がついていると、その車両は時速25マイル以下で走行していることを示します。工事用車両や、田園地帯では農耕用車両、または馬が引くワゴンや四輪馬車などに見られます。



工事の標識 - 工事、メンテナンス、緊急作業の標識は、通常ダイヤモンド型または長方形で、オレンジ色に黒い文字またはシンボルが記されており、路上または道路脇に作業者がいることを警告します。このような標識には、減速、迂回、低速走行の車両が前方を走っている、路上状態が悪い、または道路表面の状態が突然変わることなどの警告があります。工事現場では標識や旗を持った者が交通整理をするところもあり、その指示に従って通行しなければなりません。車両ドライバーは、ハイウェイの道路工事区間または整備作業区間内では、いかなるハイウェイ道路工事作業員、黄色のライトが点滅している車両、あるいは設備に対して、道を譲らなければなりません。作業員が存在する工事中の区間で違反があった場合、罰金は2倍になります。

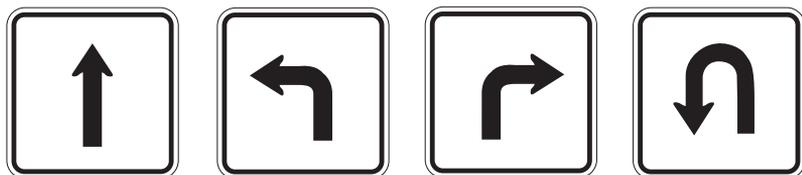
規制標識 - この標識は正方形、長方形、または特殊な形をしており、通常、白、赤、黒の地に黒、赤、白、または緑の文字またはシンボルが記されています。交通の流れる方向、車線の使用法、右折/左折、速度、駐車やその他の特殊な状況に関する規制を示します。

中にはシンボルの上に赤で斜線の引いてある赤い輪の標識がありますが、これは左折禁止、右折禁止、Uターン禁止など一定の禁止行為を示すものです。



よく見る規制標識には次のようなものがあります。

- **速度制限の標識** - 安全な最高速度または最低速度を指示します。最高制限速度は、理想的な運転状況でのみ実施し、状況の変化に従って必要なら減速しなければなりません。たとえば、雨、雪や氷などで路上が滑りやすいとき、霧が出て視界が悪いときなどは減速すべきです。制限速度の高い道路では最低制限速度を示すところもあるので、他のドライバーにとって危険な状況にならないよう、遅くともその最低速度で走行する必要があります。標識で示される最低速度が速すぎるのであれば、他の道路を通ります。
- **車線使用管理標識** - 走行してよいところや右折/左折のできるところを、たいてい矢印で示しています。この標識は道路脇か、走行している車線の頭上に掲げてあります。標識に加えて、路上にペンキで矢印が示されているところもあります。



- **追い越し禁止の標識** - 追い越し禁止区域を示します。追い越しの可能なところは、先がどれだけ良く見えるかによります。坂やカーブ、交差点、ドライブウェイ、その他の場所で道路に進入する車両のあるところなど、先に見えない危険がある場所を考慮しています。この標識と路上のマークで、追い越しのできる場所、追い越し区域の始まりと終わり、または追い越し禁止区域を示します。追い越しの許可されている区域でも、安全に追い越せる場合のみ追い

越しを行い、その際、路面状況や他の車両に注意を払います。三角形の追い越し禁止の標識もあります。どちらも黄色またはオレンジ色で、道路の左側にあります。



- 一旦停止の標識 - 八角形で赤に白い字が書いてあります。一旦停止の標識があるところでは、白線マークで、白線がない場合は横断歩道の手前で、横断歩道がない場合は接近してくる車両が見える交差点に最も近い地点で、完全に一旦停止する必要があります。通過する車両や歩行者がいなくなると、安全に車を発進できるまで待たなければなりません。
- ゆずれの標識 - これは、赤と白の逆三角形で、赤い文字が書いてあります。横断または進入しようとする道路で、減速して他の車両を優先しなければなりません。
- 進入禁止の標識 - 形は正方形で、赤い丸の内側に白の横線があるこの標識は、進入禁止を示します。誤った方向に進入してしまう可能性のあるフリーウェーなどの出口ランプ、分離帯のある道路の交差路、一方通行道路の多くの箇所など、進入してはいけない道路の開口部に掲げてあります。

- 障害者用駐車区画の標識 - 白い長方形の中に緑色の文字が記された標識と、青地に白で国際的に共通する身体障害者のシンボルマークが記された標識は、ビジネスや店舗などの特別駐車区画を示します。障害者駐車プラカードまたはナンバープレートを所持しており、つけていないと、この区画に駐車できません。必要なプラカードまたはプレートを付けずにこのような区画に駐車したり、駐車区画の横にある、身体障害者のために設けられたアクセス通路をさえぎると、罰金250ドルが課せられます。
- 悪走路情報の標識 - 長方形で白地に黒の文字があります。チェーンが必要な時を知らせるものです。チェーン装着が義務付けられている際にそれを怠った場合、500ドルの罰金が科せられます。

よく見るガイド標識は次の通りです。

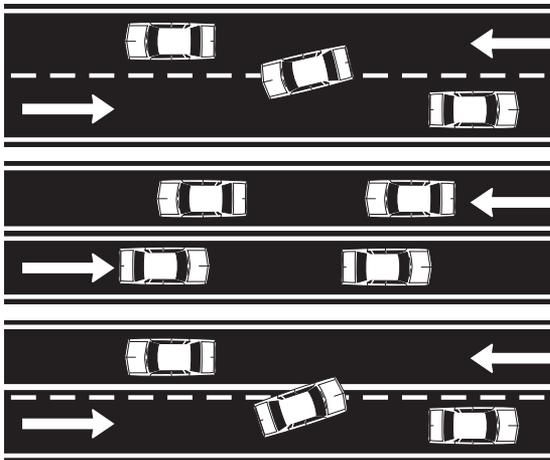
- 目的地の標識 - 正方形または長方形で、緑または茶色の地に白い文字が記されています。市、空港、州境界線、または国立公園、史跡、美術館/博物館などの特殊な地域など、さまざまな場所までの道順と距離を示します。
- サービス標識 - これらの標識は正方形または長方形で、青色または茶色の地に白い文字またはシンボルマークが記されています。休憩用エリアやガソリンスタンド、キャンプ用地または病院などの場所を示します。
- 幹線道路番号の標識 - 幹線道路番号の標識の形と色により、インターステート（州連結高速道路）、国道、州道、市道、または郡道という道路の種類を示します。旅行を計画するにあたって、ロードマップを見てルートを決めてください。旅行中は迷わないように幹線道路番号の標識に従ってください。

車道上のマーク

車道上の線やシンボルは、車線を分割したり、追い越しあるいは車線変更をしてよいか、右折/左折の車線はどれか、標識または信号で停止するべきところ、歩道などを示します。

路端線と車線 - 車道の路端に沿った実線は、車道または車線の端を示します。

- 白線のマーク - 白の実線は両方向道路の両端を示し、また、一方通行道路の右端を示します。**路端線の右側を超えて運転してはいけません。**車線間の白の破線は、その破線を越えて安全に車線変更できる場合は車線変更してもよいということを示します。車線間の白の実線は、特別な状況により、車線変更が必要にならない限り、同じ車線にとどまらなければならないことを示します。
- 黄色い線のマーク - 黄色の実線は、逆方向に流れる交通を分割し、また、一方通行道路の左端を示します。対向車線を分割する黄色の破線は、その線を越えて安全に追い越しできる場合には、追い越しを行なってよいことを示します。



黄色の破線 - 安全を確認してから、どの車両も追い越しを行なってよい。

黄色の実線 - 追い越し禁止。

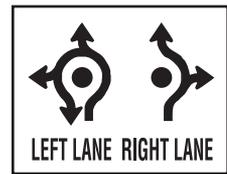
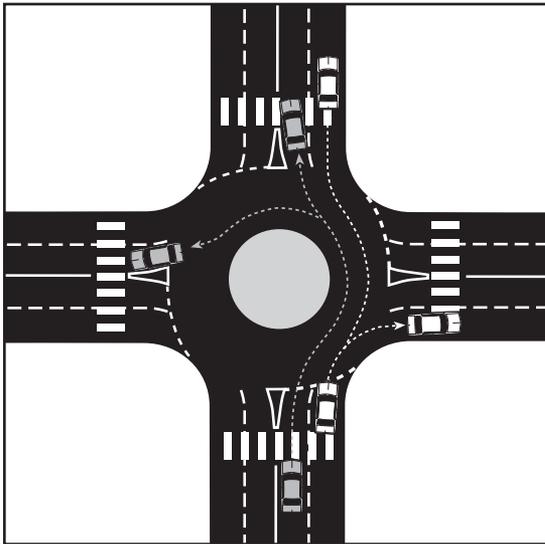
黄色の実線と破線 - 安全を確認してから、破線のある側の車両は追い越しを行なってよい。

追い越し区域には、追い越しの許可された箇所、追い越し禁止の箇所を示す標識を掲げているところがあります。黄色の実線と破線の両方で対向車線を分割してあるときは、あなたの側の実線があれば追い越しできません。破線があなたの側にあって追い越しゾーンにいる場合は、安全を確認してから追い越してもかまいませんが、追い越しゾーンが終わるまでに自分の車線に戻らなければなりません。車線が黄色の実線2本で分割されているときは、どちら側も追い越しできないことを示します。左折する場合は、中央分離帯を除き、安全を確認してから黄色の実線を越えてもかまいません。

- 中央分離帯 - 2本以上の道路に分割されているハイウェイでは、中央のスペース内を、通行したり横切ったりすることは禁止されています。この分離帯は、スペースのみで境界障害物なし、ハイウェイ分離帯、または島状の中央分離帯となっている箇所と、18インチの黄色い実線が車道上にマークしてある箇所、または黄色い実線2本の間には黄色の平行線模様マークしてある箇所があります。
- 横断歩道と一旦停止線 - 標識や信号のため停止する必要があるとき、一旦停止線の前、または横断歩道があればその前に、必ず停止しなければなりません。横断歩道は歩行者が車道を横断してよい区域です。横断歩道を横断中または渡ろうとしている歩行者がいれば、通行権を譲らなければなりません。中には、横断する歩行者によって作動するライトが埋め込まれた横断歩道もあります。このライトが点滅している際には通行権を譲らなければなりません。印の付いていない横断歩道もありますから、交差点を通過するとき、右折／左折のときは歩行者によく注意してください。
- その他の交通管理装置 - 住宅地において減速や衝突事故低減のために使用される交通管理装置があります。このような装置にはさまざまな形状のものがあります。減速バンプ、縁石で道幅を狭めるようにしたもの、または交差点中央の円形の島など、このような装置を通過する場合は必ず減速し、指示がない限り右側通行します。

ラウンドアバウト

ラウンドアバウトは、車両に島になった部分の周囲を通行させる交差点管理装置です。これに接近する車両は、必ずサークル内の交通を優先します。また、規則に従って道路を横断している歩行者や自転車を常に優先します。サークル内は常に右方向に運転します。



ラウンドアバウトでの運転のしかた

1. 交差点に接近するとともに減速します。ラウンドアバウトは時速15~20マイル用に作られています。
2. 交通の流れが途絶えたところで、ラウンドアバウトに入ります。中に入ったら停止してはいけません。どのレーンを走行するかは、標識または車道上のマークに従ってください。
3. どの通りにも出てもかまいませんし、出損じたらもう一度回ってきます。

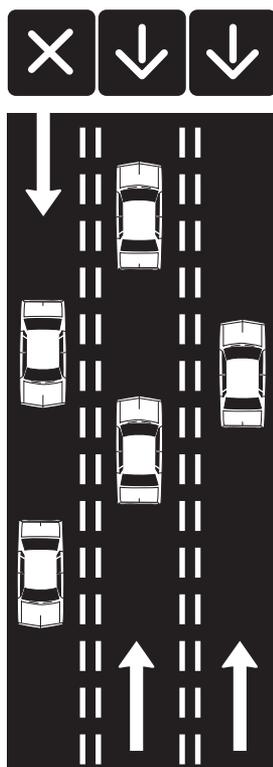
リバーシブル車線

車線には、特定の時間帯に一定方向に交通が流れ、その他の時間帯には逆方向に交通が流れるように管理されている車線があります。通常、このような車線は二重の黄色い破線でマークしてあります。このような車線を走行する前に、その時間帯にどの車線を使用できるかを確認してください。道路脇、または頭上に標識があったり、特殊な信号もよく使用されています。青の矢印は、その下の車線は走行可能を表示し、赤の「X」はその下の車線は走行禁止であることを示します。点滅する黄色の「X」は、右折または左折専用であることを示します。点滅しない黄色の「X」では、その車線の走行方向がまもなく変わるため、すばやく安全にその車線から出なければなりません。

専用車線

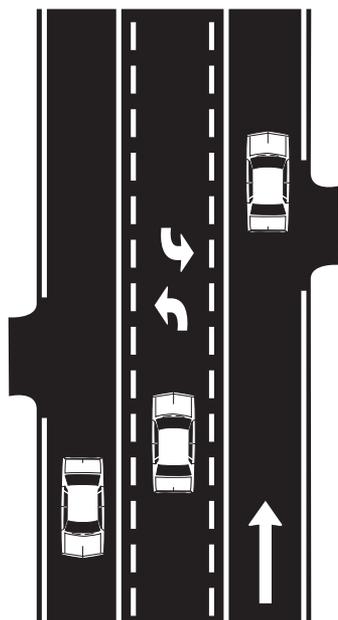
種々の道路で、1車線以上を特殊車両のために保留してあるところがあります。専用になっている車線は、特殊な目的のために保留してあることを、標識で示してあります。このような車線は、たいていは道路脇にダイヤモンド型の白い標識があるか、路面にペンキでマークしてあります。

- 「Transit」または「bus」はバス専用です。
- 「Bicycle」は自転車専用です。
- 「HOV (High Occupancy Vehicles)」は、乗車人数の多い車両用で2人以上乗車している車両用に保留してあります。標識には必要な乗車人数と、この規制が該当する曜日および時間帯を示してあります。たとえば、「HOV 3」は1台に3人乗車していなければなりません。



両方向道路での左折車線

この中央の共有車線はどちらの方向からでも左折して車線から出たり、または車線に入るためのもの（または許可されていればUターン用）です。この車線は追い越し用には使えません。また、300フィート以上は走行できません。車道上に一方向からの車両の左折用矢印がマークしてあり、その向こうに逆方向から来る車両の左折用矢印がマークしてあります。この車線は、黄色の実線と破線で左右の端がそれぞれマークしてあります。安全を確認してから進入してください。



一般的な規則

運転一般 - バック（後進）するときは、よく見て、ゆっくりとバックします。ドライバーは他の車がバックするとは思いませんし、手後れになるまで気づかないかもしれません。右折/左折する箇所や出口を通り過ぎたときは、バックするのではなく、次の曲がり角や出口まで進むか、安全に逆もどりできる場所まで進みます。路肩やフリーウェーでバックすることは違法です。

走行中の車線でいかなる理由（道がわからなくなった、車両が故障した、同乗者を車から降ろす）があっても、停止してはいけません。そのまま進んで道路脇に安全に停止します。

ワシントン州では、許可する標識のない限り、フリーウェーなどの制限のある道路でヒッチハイクをしたり、ヒッチハイカーを自分の車に乗せたりすることは法律で禁じられています。車両が走行中の道路の脇に安全に停止できないようなハイウェイ上/脇や、その他の道路上/脇にはヒッチハイカーは立つことはできません。

2車線の両方向道路では、合法的な追い越しをするとき以外は、右側の車線を走行しなければいけません。

一方向に2車線以上ある道路では、追い越しをしない限りは右側の車線を走行します。一方向に3車線以上ある道路では、外部から進入、または外部へ出る車両が多ければ、中央の車線を走行します。

道路交通制御員または標識による指示がない限り、路肩を走行してはいけません。

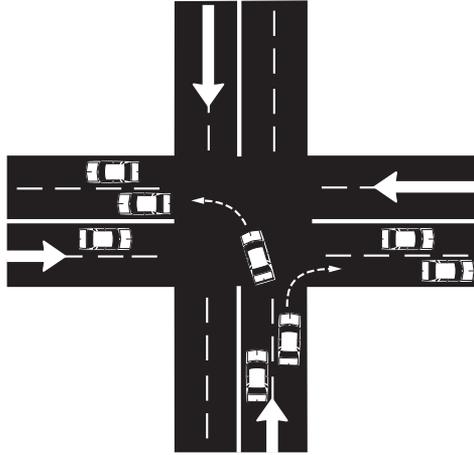
追い越し - 同じ方向に向かう 2 車線道路では、左側の車線は低速走行する車両の追い越しに使用します。同じ方向に向かう複数車線道路では、一番右側の車線は低速走行する車両、中央の数車線は高速走行する車両が使用し、一番左側の車線は追い越しのみに使用します。右側の車線で追い越すと、ドライバーから良く見えず、あなたの前で急に車線を変更するかもしれません。路肩が舗装されている、いないに拘わらず、路肩を使った追い越しは、決してしてはいけません。他のドライバーは、路肩にあなたがいるとは思わず、確認せずに突然路肩に車を寄せることがあります。

出入り制限があり、一方向に3車線以上ある道路では、許可する標識がない限り、トレーラーを牽引する車両または10,000ポンド以上の車両は左側の車線を走行できませんが、HOV車線は使用してもかまいません。

海浜での運転 - Grays Harbor郡およびPacific郡では海浜を走行してもよいことになっています。この海浜は州内ハイウェイとみなされているため、道路、車両登録、運転免許証に関する規則がすべて該当します。制限速度は時速25マイルで、通行優先権は常に歩行者にあります。マークの付いた専用進入路からのみ、この海浜に進入できます。また、砂を押し固めた部分しか走行できません。海浜閉鎖や、臨時に海浜での運転禁止を示す標識に注意してください。

フェリーを待つ - ワシントン州フェリー (Keller フェリーを除く) の乗船を待っている間は、フェリーの従業員の指示がない限り、住宅のドライブウェイの前に停めたり、乗船を待っている列に並んでいる他の車両の前に動くことはできません。

右折/左折 - 行きたい方向に最も近い車線から、その車線に最も近い車線に進入できるように右折/左折を行ないます。右折/左折を行なう際は、他の車線のラインを越えたり、交通の流れを妨げたりしないで、できるだけ車線から車線へ直接進入します。右折/左折を終えた後に、必要なら車線を変更してもかまいません。



- 右折 - 右折の際は、カーブする前に左側に大きく曲がることを避けます。このような右折では、後続車のドライバーはあなたが車線変更するか、あるいは左折をすると思いい、右側からあなたを追い越そうとするかもしれません。右折し終わる時に遠い方の車線へ入ると、その車線を走行するドライバーは、あなたがそこに居ると思わないかもしれず、危険です。



- 左折 - 左折の際に、ハンドルを切るのが早すぎると、対向車線に入る恐れがあるので、それは避けます。逆に、あなたの前で左折する対向車に衝突しないよう、十分スペースを取ります。
- 複数の左折/右折車線 - 2車線以上の車線で右折/左折できることを示す標識やマークがあるところでは、車線変更をせずに、右折/左折を行ないます。
- U ターン - U ターンは、安全にできるときにだけ行います。カーブや、坂道の一番上に近づいたとき、他の人からあなたの車が見えないときには、U ターンしてはいけません。市や町によってはU ターンが禁止になっています。最寄りの警察に確認してください。

近隣地域電気車両 (Neighborhood Electric Vehicles、NEV)、ミドルスピード電気車両 (Medium-speed Electric Vehicles、MEV)、モーターつきフットスクーター (Motorized Foot Scooters、MFS) -NEVと MEVはどちらも電気で動く車輪が4つある車両で、時速35マイル以下で走行できます。NEVは時速 20-25マイルのスピードが出ます。MEVは時速 30-35マイルで走行でき、ロールケージが装備されているか、または押しつぶされない車体設計になっています。これらを運転するときは次のものがが必要です:

- 車両登録とナンバープレート
- 運転免許証
- 自賠責保険
- シートベルト、チャイルドシート、その他の安全装置の着用

MFS には、ハンドルバー、10インチ以下の車輪が2個、ガスまたは電気のモーターがなくてはなりません。保険、ナンバープレート、運転免許証は不要ですが、夜に運転する際は、州パトリール認可の反射板を付けなければなりません。

認可証がない場合 - どの車両でも、必要な認可証を所持せずに運転した場合、その車両は没収される可能性があります。

通行権

他の車両や歩行者、自転車が安全に通過できるよう、減速したり、停止しなければならない状況がよく発生するでしょう。交通を規制する標識や信号がなくても、誰が通行権を譲らなければならない側にあるかを決定する法律があります。

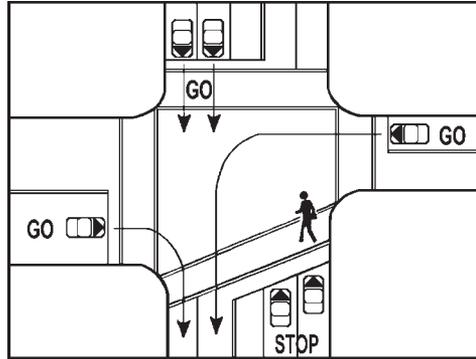
法律により、誰が通行権を譲るべきかが規制されていますが、誰にも通行権を与えるものではありません。状況に関わらず、歩行者あるいは車椅子に乗っている通行者、または他の車両に衝突するのを避けなければなりません。

歩行者は、自分自身の安全のため、交通の流れに対向して、道路脇を歩きます。ドライバーは歩行者が道路に出てくるかもしれない場合に備えて、道を譲る準備をしておきます。路上に記されている横断歩道、または交差点の路上に記されていない横断歩道以外の場所で道路を横断する歩行者は、車道のすべての車両に道を譲らなければなりません。

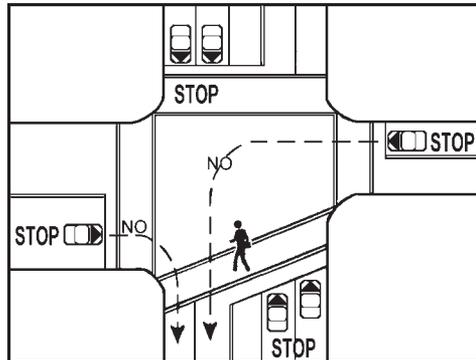
交差点では、次の通行権の規則が該当します。

- 横断歩道のマークが路上に書かれている、いないにかかわらず、横断歩道や交差点では、歩行者や自転車に通行権があります。横断している歩行者や自転車に衝突しないよう、必要であれば通行権を譲らなければなりません。

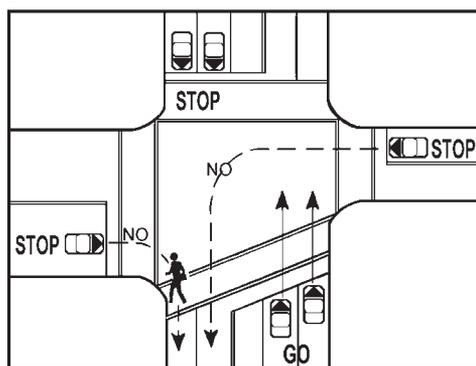
- あなたの走行道路上（道路幅の半分で、あなたが走行している側）を横断中の歩行者や自転車がいれば、停止しなければなりません。



- あなたの走行道路から1車線以内に、歩行者や自転車がいる場合は、停止しなければなりません。



- あなたの走行道路から1車線以上向こう側に、歩行者や自転車がいる場合は進行できます。



- ドライブウェイ、路地、または駐車場への出入りの際に歩道を横切る時は、必ず一旦停止し、歩行者に通行権を譲らなければなりません。そのような出入り以外は、歩道を走行するのは交通違反です。
- 盲導犬やその他の介助動物を連れていたり、白い杖を使用している歩行者には、絶対通行権があります。介助動物の邪魔をしたり、気を散らすことは違法行為です。歩行者や介助動物を混乱させたり驚かしてしまうため、クラクションは鳴らしてはいけません。
- 左折する際は、対向車、歩行者、自転車に通行権を譲らなければなりません。
- ラウンドアバウトに進入するドライバーは、すでにラウンドアバウト内を走行しているドライバーに通行権を譲らなければなりません。
- 一旦停止の標識、ゆずれの標識、あるいは信号のない交差点では、ドライバーは交差点内の車両および右側から進入してくる車両に通行権を譲ります。
- 四方一旦停止では、交差点に最初に到達したドライバーが最初に交差点に進入します（一旦停止した後）。同時に2台以上の車両が交差点に到達した場合は、右側の車両から先に進入します。
- ドライブウェイ、路地、駐車場、道路脇から道路へ進入するドライバーは、その道路をすでに走行中の車両に通行権を譲らなければなりません。
- 交差点を通過する途中で停止することになりそうな場合は、ドライバーは交差点に決して進入してはいけません。交差点の通行を妨げないよう、前方の車両が走行してしまうまで待ちます。
- 同じ方向に走行中の車両を追い越す場合は、その車両が突然左折／右折したり、スピードを落としたり、停止したりする場合に備えて、通行権を譲る準備をしなければなりません。
- 道路を横断中の電車に通行権を譲らなければなりません。

- パトロールカー、消防車、救急車、またはサイレン、エアホーン、赤あるいは青のライトが点滅しているその他の緊急車両に、通行権を譲らなければなりません。どの方向からでも緊急車両の接近が見えたり、サイレンなどが聞こえた場合は、速やかに道路の右端、またはできるだけ右側に近いところに車両を寄せ、停止します。交差点を通行中の場合は、交差点を渡りきってから停止してください。信号が赤の場合はそのまま動かずにいます。緊急車両のスピーカーから指示が聞こえたら、それに従います。
- 赤いライトを点滅してスクールバスが停車している場合は、スクールバスがあなたの車線、反対車線、または進行方向の交差点で停車していた場合でも、停止しなければなりません。ただし、赤いライトを点滅して停車中のスクールバスが反対車線にあり、道路が次の条件に該当する場合は、停止の必要はありません。
 - 3車線以上ある道路
 - 中央分離帯がある、または
 - 柵などで物理的に分離されている。スクールバスの赤いライトの点滅が止まったら、沿道にいる子供に注意し、子供たちが完全に道路から離れたのを確認するまで発車してはいけません。
- どのような種類の輸送機関車両（バス）であっても、方向指示器を出して道路にもどろうとしている場合は、その車両に道を譲らなければなりません。



駐車

ドライバーには、駐車した車両が危険な状況を起こさないよう確認する責任があります。駐車の際は、常にあなたの車両が交通の流れの邪魔にならないよう、車両が走行する車線から十分離れた場所、かつどちらの方向からでも良く見える場所に駐車してあることを確認します。

- 常に、できるだけ駐車用のエリアに駐車するようにします。
- 駐車するときは、常にサイドブレーキをかけます。マニュアルトランスミッションの車両はギアが入っている状態にし、オートマチックの車両は「パーキング」の状態にします。
- ドアを開ける前に、必ず他の車両に注意し、できれば歩道側に出るようにします。車道側に出なければならないときは、出る前に他の車両が接近していないか確認します。また、外に出たらすぐにドアを閉めます。
- イグニッションキーを、駐車中の車内に残してはいけません。車両から離れるときは、いつでもドアをロックします。
- 16歳未満の子供だけをエンジンのかかった車の中に残すのは、違法です。
- 車道上に駐車する場合は、走行する車両からできるだけ離れたところに駐車します。歩道があれば、できるだけ歩道の縁石に近いところに駐車します。

坂道での駐車

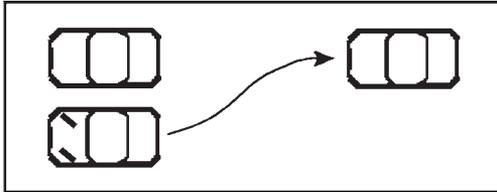
坂道で駐車するときは：

- 歩道の縁がある上り坂では、サイドブレーキをかけ、歩道の縁の反対側にハンドルを切ります。こうしておけば、万一車両が動いても、歩道の縁に向かって動きます。
- 下り坂では、サイドブレーキをかけ、歩道の縁に向けてハンドルを切ります。
- 歩道の縁のない坂道では、サイドブレーキをかけ、歩道の縁があるときと同じ方向にハンドルを切ります。こうしておけば、万一車両が動いても、通行する車と反対の方に動きます。

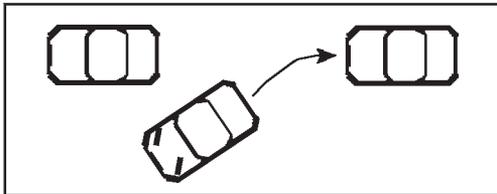
縦列駐車

縦列駐車するときは、歩道から12インチ以内のところに駐車します。次のステップに従って、縦列駐車を行ないます。

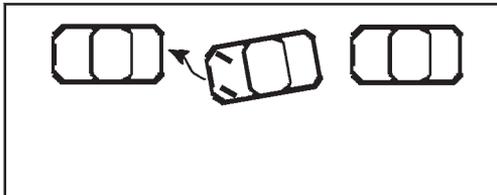
- 前に止まっている車両と並んで停止します。ハンドルを大きく右に切り、後ろの車両に向かってゆっくりバックします。



- 前の車両が障害にならないところまで来たなら、ハンドルを大きく左に切り、後ろの車両に向かってゆっくりバックします。



- ハンドルを大きく右に切り、歩道の縁に向かって動かし、駐車するスペースの中央に入るようにします。



駐車禁止ゾーン - 駐車禁止のエリアは多数ありますから、駐車禁止または駐車制限の標識に注意します。歩道の縁に塗ったペンキの色で駐車制限を示すところもあります。次の場所には駐車してはいけません。

- 交差点内
- 横断歩道の上、または歩道の上
- あなたの車両が、交通の妨げになるような道路工事現場
- 信号、一旦停止標識、またはゆずれの標識から30フィート以内
- 歩行者安全区域から20フィート以内
- 消火栓から15フィート以内
- 踏切から50フィート以内
- 歩道の縁石から12インチを超えるところ
- 消防署のドライブウェイと同じ側にいる場合はそこから20フィート以内、あるいは通りの反対側にいる場合は75フィート以内
- ドライブウェイ、路地、私道、または歩道の縁石を取り除いてあるか歩道へのアクセスのために低くしてあるエリアから5フィート以内
- 橋、高架の上、トンネルの中、あるいは高架の下
- 反対方向の車道
- 障害者ナンバープレートまたはプラカードを所持していない限り、障害者用にマークしてあるスペース
- すでに駐車してある車両の道路側の横（二重駐車）
- 線路上
- フリーウェイの路肩（非常時は除く）
- その他駐車禁止標識のある場所すべて

その他の駐車制限は、標識や歩道の縁のペンキの色で示してある所もあります。

- 白は短時間駐車のみ可能を示しています。
- 黄色または赤は荷積み区域、またはその他の制限があることを示しています。

安全運転のヒント

どんなドライバー用のマニュアルでも、車両の操作方法や、安全なドライバーになる方法を教えることはできません。運転には、指示や練習からしか得られない運転技能が必要です。運転の基本的な情報を次に示します。

発進

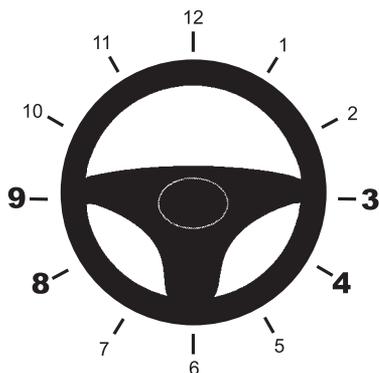
操作マニュアルを参照して、最適な発進方法を確認します。車両を動かす前に、サイドブレーキがかかっていることを確認します。マニュアルトランスミッションの車両では、ギアが入っていないことを確認します。車両の種類によっては、クラッチを踏まなければならないものもあります。オートマチックの車両では、シフトが「パーキング」に入っていないければなりません。

アクセル

徐々に、滑らかに加速してください。急に加速して車両を動かそうとすると、タイヤがスピンし、特に路面が濡れているときは横滑りの原因となります。マニュアルの車両では、ギアをシフトする際に、エンジンが加速しすぎたり、エンストしないようクラッチとアクセルのかみ合いを練習してください。

ハンドルの切り方

ハンドルの両側に両手を乗せてください（左手は8時と9時の間、右手は3時と4時の間）。この位置は楽で、高速で走行する道路でもハンドルから手を放さずにハンドルを切ることができます。また、エアバッグの妨げにもなりません。ドアにもたれたり、窓からひじを出したり、片手で運転したりすると、非常時にすばやく反応しにくくなります。



車両のすぐ前だけでなく、進行方向のずっと先、道路の左右も見ます。到着する前に避けた方がいいような交通状況に注意していると、滑らかに、また安全にハンドルを切ることができます。

急カーブを曲がる時は、「ハンド・オーバー・ハンド」（一方の手の上にもう一方の手が来るように）のテクニックを使用します。曲がりきったら、手を添えてハンドルをまっすぐに戻します。手の中をすり抜けるように、ハンドルがひとりでに戻るようにするのは危険です。

スピード違反と制限速度

スピード違反を起こさない一番良い方法は、走行中の速度を把握していることです。速度計を頻繁に確認しましょう。走行中の速度を判断するのは困難で、考えているよりも実際の速度は速くなるのが普通です。特に、高速で走行する道路から、低速で走行する道路に進入したときに、よく見られます。

制限速度の標識に従ってください。制限速度の標識は、あなたの安全を守るものです。他に指示する標識がない場合、下記のように制限速度を適用してください。

- スクールゾーンでは、時速20マイル
- 市や町の中の通りでは、時速25マイル
- 郡道では、時速50マイル
- 州のハイウェイでは、時速60マイル
- インターステートハイウェイ（州連結高速道路）のいくつかの区域では、これより高い制限速度の標識があります。

停止

停止する必要があることが、十分早くわかるよう、常に状況に注意します。急停車は危険であり、注意を怠っているドライバーがよく急停車しています。ブレーキを急に踏むと、タイヤが滑って車両をコントロールできなくなります。また、後続車があなたの車両に追突せずに停止するのが非常に困難になります。

十分早めに状況を判断し、急停車は避けます。減速または車線変更すれば、停止する必要がないかもしれませんし、もし停止する必要がある場合は、より緩やかで安全に停止することができます。

良く見えること

運転中に何をするかは、何が見えるかによります。良いドライバーになるには、周囲をよく見なければなりません。視界がさえぎられたり、車両のコントロールの邪魔になるようなら、前部座席に3人より多くの人を乗せて運転してはいけません。衝突事故の最大の原因は、何が起こっているか見ることが怠ったからです。車両の前方、左右、後方をよく見て、予測しないことが発生するかもしれないので注意しておきます。夜間や、周囲がよく見えないときは、ヘッドライトを付けなければなりません。

常に、あなたの周囲で何がおきているか、注意を払わなければなりません。多くの衝突事故は、ドライバーが運転に十分注意を払っていないことが原因です。一回に2-3秒以上道路から目を離してはいけません。地図を見る必要があれば、安全を確認して道路の脇に車両を寄せてからにします。運転中には、地図を見てはいけません。自動二輪車、自転車、歩行者の関わる事故を起こしたドライバーは、目を向けてはいたが、実際にはそれらが見えていなかったと言っています。

ドライバーの注意散漫

車両を運転中は、次の場合を除き、送信やテキストメッセージの読み書きのために電子通信機器を使うことはできません。

- 違法行為を通報するとき
- 医療または他の緊急の援助を求めるとき
- 人や物への被害を避けるとき
- 認可された緊急車両を運転しているとき
- 公共または民間の交通機関のドライバーと、ドライバーの配車管理者が車両に取り付けられた取り外しのできない機器を使って情報を伝えているとき
- 車両に取り付けられた取り外しのできないGPSまたはナビゲーションシステムを使っているとき

2008年7月1日より、車両を運転中は、次の場合を除き、ワイヤレス通信機器を手で持って耳にあてることはできません。

- 違法行為を通報するとき
- 医療または他の緊急の援助を求めるとき
- 人や物への被害を避けるとき
- 認可された緊急車両を運転しているとき
- 故障車に向かってレッカー車を運転しているとき
- 連邦通信委員会発行のライセンスを取得して、アマチュアラジオ局を使用しているとき
- 補聴器を使用しているとき

動いている車両を運転している間は、「ハンズフリー」モードでも、ワイヤレス通信機器の使用は避けてください。携帯電話やラジオで話すことは運転の妨げになります。

両耳を覆ったり両耳に入るヘッドホンやイヤホンを使用してはいけません。これは、ワシントン州及びその他の多くの州で違法行為であるだけでなく、緊急車両のサイレンやクラクションが聞こえにくくなります。この法規は、ヘッドセットやイヤホンが組込まれたヘルメットをかぶっている自動二輪車や、ハンドフリー携帯電話システムには適用されません。

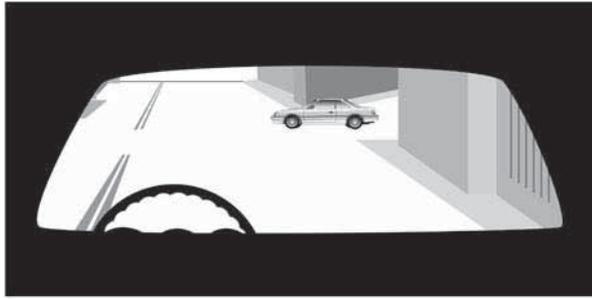
事故現場、違反切符を切られているドライバーや、その他道路脇の出来事を見ようとして減速してはいけません。このような行為により、事故になる恐れがあります。何かを見ようと道路から目を離すと、前の車が減速または止まった所へ追突する可能性があります。また、渋滞がひどくなる恐れもあります。道路脇で上記のような事態が発生しても、道路から目を離さずに、できるだけ早く、また安全にその場を離れるようにします。

スキャンする（さっと見る）

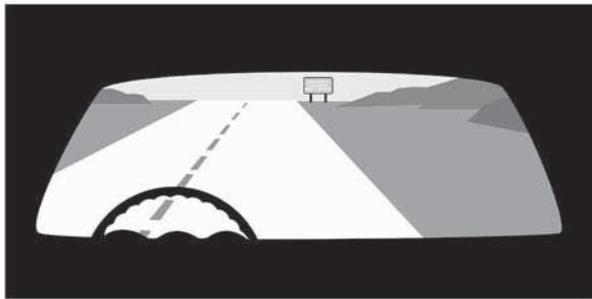
良いドライバーになるには、あなたの車両の周囲で何が起きているかを認識していなければなりません。前方、左右、後方をよく見なければなりません。スキャンすることで、前方で起きている問題や、あなたが現在地から到達するまでの間に前方を通行する可能性のある車両や歩行者、また、前方に問題があることを示す標識や行き先を示す標識などが見やすくなります。

前方を見る - 最後の瞬間にブレーキを踏んだり、曲がったりするのを避けるため、前方を良く見る必要があります。十分先を良く見て、停止や車線変更する用意ができていれば、より安全に運転できる上、ガソリンの節約ができ、一定の速度で交通が流れるようにでき、車両の周囲や道路脇の状況をよく見ることができます。また、ジグザグ運転を避け、真っ直ぐ走行しやすくなります。安全運転を行なうドライバーは、現在地の少なくとも10秒先を視界にいれる傾向にあります。距離でいうと、現在地から10秒後にあなたが走行する地点までの距離となります。

市内で10秒先を見る



ハイウェイで10秒先を見る



市内では、10秒は1ブロックに相当します。市内を運転するときは、少なくとも1ブロック先が視界に入っているようにしてください。ハイウェイでは10秒は市内の4ブロック相当、または1/4マイルとなります。

何秒先が視界に入っているかを知るには、次の事柄を実行してみてください。

1. あなたの見ている前方と同じ位の距離の離れた道路脇の標識や電柱など、静止している物体を見つけます。
2. その物体に到達するまでone-one-thousand、two-one-thousand、three-one-thousandのように数えます。
3. 数えた秒数は、何秒先を見ていたかに相当します。

よく前方を見ておくことにより、より安全に運転ができます。急停車や急な方向転換を避けることができるので、衝突したり、衝突されたりする確率がより低くなります。

前方をよく見ておくと、ガソリンの節約にもなります。急停車するごとに、元の速度に戻るための時間とガソリンが必要になるからです。前方をよく見るドライバーなら、徐々に減速や車線変更を行なって、急停車による1ガロンあたりの走行距離の低下を避けることができます。

ドライバー全員が前方を良く見れば、交通の流れはスムーズになります。早めの減速や車線変更などをすると、後続のドライバーは反応するのに少し長い時間をかけることができます。より早目に行動をとっておけば、後続のドライバーが、あなたの車両の動きに即座に反応する必要が減少します。このように、必要な行為を早めに知ることによって、より安全に運転ができる上、後続のドライバーの安全運転にも役立ちます。

左右を見る - いつ他の車両や歩行者、自転車が、あなたの進路を横断または進入してくるかはわからないので、誰も横から進入してこないか、左右をよく見ます。交差点や踏切では特に注意します。

交差点 - 交差点とは、交通が合流したり、交差する場所を指します。これには、交差する道路、歩道、ドライブウェイ、ショッピングセンターまたは駐車場入り口などがあります。交差点に進入する前に、左右を見て車両、歩行者、または自転車が接近して来ないか確認します。停止している状態からは、前進する前に左右をよく見ます。進行方向の前方に、車両や歩行者がいなかったことを確認してから前進すると、停止しなければならぬ場合に、交通の流れを妨げずにすみます。

対向車線を越えて左折する前に、最低100フィート手前で左折の方向指示器をつけます。対向車の交通の途切れが、安全に左折するために十分であることを確認します。左折して進入する道路を見て、車や歩行者、または自転車がいないことを確認します。左折の前に、もう一度対向車線の方を見ます。

右折の前には、最低100フィート手前で右折の方向指示器をつけます。左側から接近する車両などがないこと、対向車が、あなたの進入する道路に左折して進入してきていないことを確認します。右折しようとしている場所を横断する歩行者がいないことを確認するまで、右折を始めてはなりません。一旦停止の後、禁止されていないければ、赤信号でも右折してかまいません。また、禁止されていない限り、一方通行路または両方向道路から一方通行路へ左折してかまいません。

信号や標識が、前方を横切る車両や歩行者がいないと示していても、それを当てに はいけません。ドライバーの中には、信号や標識に従わない人もいます。交差点では、他が赤信号や一旦停止の標識があっても、必ず左右を確認します。特に赤信号が青に変わったときに、交差する道路のドライバーには信号が赤に変わる前に急いで交差しようとする人もいるので、この左右の確認が大切です。この他、飲酒運転や薬物の影響下での運転、あるいは無謀な運転をするドライバーも停止しないことがあります。

交差点に進入する前に、交差する道路の交通状況がよく見えることを確認します。停止していて、交差する道路が何かさえぎられてよく見えない場合、見えるようになるまで、ゆっくりと前方に少し移動してください。ゆっくり移動すると、交差する車両のドライバーからあなたの車両が、あなたからそのドライバーが見えるよりも先に見えるようになります。こうすると、交差するドライバーが減速したり、あなたに警告したりできます。

道路沿いに大勢人がいるときは、その中の人々が道路を横断したり、道路に出たりすることが考えられます。そのため、ショッピングセンター、駐車場、工事現場、人通りの多い歩道、遊び場や運動場の近くでは、左右の確認が大切です。

踏切 - 踏切に近づいたら、減速して、どちらの方向からも電車が接近していないことを確認します。踏切を渡るのが安全かどうか、確かでないときは、ラジオを消す、ボリュームを低くする、会話を中断する、窓を開けて電車が来るか目や耳で確認するなどを行います。前方の車両が踏切の向こう側に渡りきれぬ十分なスペースができるまで、踏切を渡り始めてはいけません。踏切内で停止しなくても済むように、踏切の向こう側に渡りきれぬ十分なスペースができるまで待ちます。

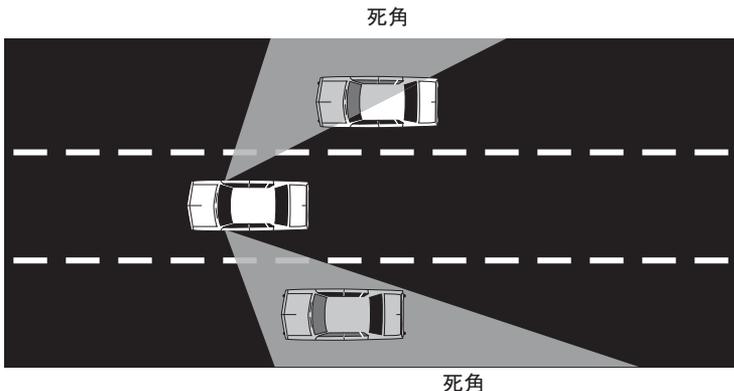
複線の踏切では、通過中の電車が踏切から十分離れるまで、踏切に進入するのを待ちます。通過中の電車の陰に別の電車が隠れて、接近するのが見えないことがあります。

後方を見る - あなたの車両の前方を見るだけでなく、後方にも注意します。交通量の多いときは、より頻繁に後方を見てください。こうすれば、車間距離を十分取らずに後続する車両や、後方から急速に接近する車両があるかどうかわかり、また、それに対して、取るべき措置を考える時間を持てます。車線変更、減速、バック(後進)する場合、また長い坂や急な坂道では、特に、後続車に注意が必要です。

車線変更 - 車線変更をする際は、進入先の車線に車両がないことを、確認しなければなりません。つまり、車線変更の前に、あなたの車両の横と後方を必ず確認しなければなりません。車線変更とは、1つの車線から別の車線に移ること、入り口ランプから道路に合流すること、歩道の縁や路肩から車道に進入することなどを意味します。車線変更時には、次のことを行います。

- 移動する方向の方向指示器をつけます。
- バックミラー、サイドミラーを使用します。あなたが進入しようとしている車線に車両がないこと、誰もあなたを追い越そうとしていないことを確認します。

- 移動先の車線を肩越しに見ます。車両の後方の角に、誰もいないことを確認します。これはミラーでは見ることができないため、「死角」と呼ばれています。死角に入っている車両の有無を確認するには、首を回して、見なければなりません。
- すばやく確認します。前方の道路から目を離すのは、一瞬だけにします。あなたが前方から目を離して左右、後方、肩越しに見える車両を確認している間に、前方の車両が急停車することがあります。また、車線変更、合流、あるいは道路脇から車道に進入する準備をしながら、ミラーで交通の流れを確認します。こうすれば前方の車両にも、同時に注意を払うことができます。車線変更をする直前に、肩越しに死角を確認します。必要なら、数回確認しますが、一回あたりの時間を取りすぎないでください。常に前方の交通と、変更先の車線の交通の動きを把握しておかなければなりません。
- 離れた車線に注意します。3車線以上ある場合は、離れた車線も確認します。その車線内の車両が、あなたが移動しようとしている同じ車線に進入してくる恐れがあります。
- その他の道路利用者にも注意します。自動二輪車、自転車、歩行者も道路を通行しており、それらは自動車やトラックと比べて見えにくいことを念頭に置いてください。歩道の縁やドライブウェイから車道に進入する際には、特に注意します。



減速の際 - 減速する際は、常に後続の車両に注意します。急な減速をしたり、ドライブウェイや駐車場など、あなたが減速するとは後続のドライバーが思わないような箇所で減速するときに、特によく注意します。

バックする際 - 後方は見えにくいので、できるだけ少しずつバックするようにします。ショッピングセンターでは、前向きに出られるように、通り抜けのできる駐車用スペースを探すようにします。バックが必要なときは、安全にバックするために次のことを心がけます。

- 車に乗り込む前に、後方を確認します。子供や小型の物体などは、運転席からは見えません。
- 右腕を席の背に回し、後ろを向いて、直接リアウインドウから後方が見えるようにします。車両の真後ろにあるものを見るのに、バックミラーやサイドミラーだけに頼ってはいけません。
- ゆっくりバックします。バックする際は、ハンドルは切りにくいので注意します。歩道を横切るバックや、バックしながら道に入っていくときは、バックの前に一旦停止しなければいけません。左右を見て、歩行者や車両に道を譲ります。
- できれば、車の外に立っている人に手伝ってもらいます。

長い坂道や急な坂道を下る際 - 坂道や山道を下りる際は、ミラーで確認します。急な坂道では、坂を下る車両は速度を増しやすくなります。速度の出過ぎているような大型トラックやバスに注意します。

ライトをつける

法律により、日没後30分後から日の出の30分前までの間、車両のヘッドライトを点灯させなければなりません。また、通行者や他の自動車が見づらいときは、常にライトを点灯させなければなりません。視界を良くするためにできることを、次にいくつか紹介します。

- 対向車がないときは、ハイビームにします。ハイビームを使用すると、ロービームの2倍の距離が見えるようになります。ハイビームは、よく知らない道路、工事現場、または道路沿いに人がいるようなところで使用することが重要です。
- 対向車が500フィート以内に接近したら、ロービームに下げます。
- 他の車両を300フィート以内で後続している際は、ロービームを使用します。
- 霧が出ているとき、雪や雨の激しいときは、ロービームを使用します。ハイビームの光は、反射し返してギラギラし、更に前方が見えにくくなります。フォッグライトがあれば、視界が悪いときはそれを使用してください。

ハイビームライトをつけて対向車が接近してきたら、対向車が通り過ぎるまで、ヘッドライトから目をそらし道路右側を見るようにします。こうすると、対向車のヘッドライトで一瞬目が見えなくなるのを避けることができ、道路の端が見えるので、道路から落ちずに走行を続けることができます。

「対抗」して、ハイビームを使用してはいけません。お互いにまぶしくて前が見えなくなってしまうでしょう。

他のドライバーに自分の存在を知らせる

衝突事故は、あるドライバーが別のドライバーを見ていなかった、あるいは他のドライバーが予期しない行為を、あるドライバーがとってしまったために、よく発生します。ドライバーは、他の道路利用者に対して、自分の存在と、次に何をしようとしているかを知らせるのが重要です。

ドライバーの中には、周囲で何が起きているかに注意を払わない人もいますので、あなたが走行していることを知らせることが重要です。

ヘッドライトをつける - ヘッドライトは夜間の視界を良くしてくれるほかに、周囲に対しあなたの存在を知らせます。他の車両が見えにくい時はときはいつでもヘッドライトを点灯させてください。

- 雨、雪、霧のときは、他のドライバーからあなたの車両が見えにくいことがあります。このようなときは、ヘッドライトを使用すると見えやすくなります。ワイパーを使用する時は、ヘッドライトもつけます。
- 外が暗くなってきたら、ヘッドライトをつけます。ヘッドライトをつけるのが少し早めでも、他のドライバーからあなたが見やすくなります。
- 運転中にライトが必要なら、ヘッドライトをつけてください。パーキングライトは駐車している車両専用です。
- 日の出や日没時の太陽を背にして運転しているときは、対向車のドライバーからはあなたの車両が見えにくいかもしれません。そのような時はヘッドライトをつけます。
- 夜間に道沿いに停止するときは、緊急点滅灯とロービームをつけておきます。

クラクションを鳴らす－あなたの方を見ていない限り、その人にはあなたの車両は見えません。クラクションで注意を引くことができます。事故防止に役立つときは、常にクラクションを鳴らします。もし即座に危険につながらない場合は、クラクションを軽く鳴らすだけで十分です。次のような場合に、クラクションを軽く鳴らします。

- 歩行者や、自転車に乗っている人が、あなたが走行中の車線に進入してきたとき
- ある車両を追い越そうとしたら、その車両があなたの車線に進入しようとしたとき
- あるドライバーが注意散漫か、あるいはあなたの車両が見えにくそうなとき
- 前方に何かがあるか見えにくい場所に近づいたとき。たとえば、急な坂道、急カーブ、または細い路地からの出口。

次のような危険な状況では、恐れずにクラクションを大きく鳴らします。

- 子供やお年寄りが歩いたり、走ったり、自転車に乗ったりして道路に出てきそうなとき
- 他の車両があなたに衝突しそうなとき
- あなたが車両のコントロールを失い、誰かに向かってしまっているとき

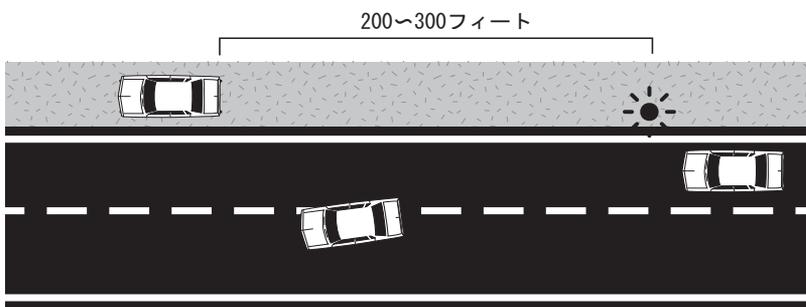
クラクションを鳴らさない－次のような状況では、クラクションは鳴らさない方が無難です。

- 他のドライバーに加速するよう促したり、道を譲るよう促すとき
- 他のドライバーのミスを知らせるとき
- 友人に挨拶するとき
- 盲人の歩行者の周り
- 自転車を追いこすとき
- 馬に接近しているとき

緊急信号の使用 - ハイウェイであなたの車両が故障した場合は、他のドライバーに必ずそれを知らせます。衝突事故の多くは、他の車両がエンストを起こしたのがわからず、手後れになるまで停止できなかったことが原因になっています。

可能であれば、送受信両用無線機または携帯電話で、緊急対応機関に、あなたの、または他の車両が故障したことを知らせます。道路わきに、緊急連絡時にかけるべきCBチャンネルまたは電話番号を示す標識のあるところが多くあります。車両が故障し、停止しなければならなくなったら、次のように対処します。

- 道路脇に車両を寄せ、走行する車両からできるだけ離れます。
- 緊急点滅ライトをつけ、車両が故障したことを知らせます。夜間には、ヘッドライトもつけたままにしておきます。
- もし道路脇に寄せることができなければ、他のドライバーからよく見える場所に車両を停めるようにします（上り坂を越えた直後や、カーブをすぐ曲がった所には停めてはいけません）。
- 他の道路利用者に、あなたの車両が停めてあることを警告します。車両から200～300フィート後ろの路上に緊急発火装置（緊急用フレア）を置くと、他のドライバーが、必要であれば車線変更できます。



- 緊急発火装置またはその他の警告装置がないときは、道路わきの安全な箇所立って、他のドライバーがあなたの車両を避けて通過するよう、手を振って合図してください。

- 路上には決して立ってはいけません。車両が走行する車線内にいなければならない場合は、タイヤの交換をしてはいけません。
- ボンネットを開けるか、アンテナ、サイドミラーまたはドアのハンドルに白い布をくくりつけて、緊急事態を表示します。

死角を避ける - 他のドライバーからあなたの車両が見えるところを運転し、他の車両の死角になるところは運転してはいけません。

- 他の車両の横やすぐ後ろを運転しないようにします。このような位置は、他のドライバーの死角です。加速するか、減速して他のドライバーからより見えやすい位置に移動します。
- 追い越しをするときは、できるだけ早く、他のドライバーの死角から出ます。他の車両のドライバーの死角に長くいればいるほど、その車両があなたにもたらす危険性が高くなります。
- トラックやバスなどの大型車両の横を長時間走行してはいけません。そのような大型車両の死角は大きいです。

何をしようとしているかを知らせる

一般的に、ドライバーは、他の車両は現状維持の運転をすると思うものです。方向転換あるいは減速する際には、それを警告しなければなりません。これは他のドライバーに必要なならば、反応する時間を与え、あるいは、少なくともあなたの行為で驚かないようにします。

方向転換の際に方向指示器を出す - 方向指示器は、他のドライバーに反応する時間を与えます。車線変更、右折/左折、合流、または駐車の前に、方向指示器を出します。

- 方向変換の際は、毎回方向指示器を出す癖をつけます。他に車両が走行していなくても、方向指示器を出します。あなたが何をしているかを認識する必要がある人に、気付かずに走行してしまうことはよくあります。
- 少なくとも右折/左折などをする100フィート手前で方向指示器を出します。

- あなたの車両とあなたが方向転換する箇所の間で、他の車両が道路へ進入しようとしたら、その車両を通過してから指示器を出してください。指示器を早く出しすぎると、そのドライバーのいる所でああなたが右折や左折をするものと誤解してしまい、あなたの車線に進入してくる恐れがあります。
- 右折/左折や車線変更をしたら、方向指示器が消えていることを確認します。方向転換が小さい場合、指示器が自動的に消えないことがあります。このような時は、必ず消します。つけたままにしておくと、他のドライバーは、あなたがまた右折や左折をするものと考えてしまいます。
- 他のドライバーから方向指示器のライトが見えないときは、他のドライバーにわかるように、ハンドシグナルを出します。



減速するときの合図 - ブレーキライトは、他のドライバーに減速することを知らせます。安全を確認して、常にできるだけ早く減速します。他のドライバーが予期しないような場所で減速や停止をする場合は、ブレーキを3、4回軽く踏んで、減速することを後続車に合図してください。

次のような場合に減速するときは、合図をします。

- 右折/左折専用車線や出口用車線がない道路で、右折や左折をするとき。
- 交差点のすぐ手前で駐車したり、右折や左折をするとき。後続車のドライバーは、あなたが交差点に進入するものと思っています。
- 後続車からは見えない路上の物体や、停止あるいは減速している交通を回避するとき。

道路の状態に合わせる

速度が出ていればいるほど、方向転換、減速、あるいは停止により長い距離が必要です。たとえば、時速60マイルから停止するには、時速30マイルのときと比較して3倍の距離が必要です。安全運転とは、制限速度を守り、道路や交通状況に合わせることを意味します。

運転していると、安全を維持するために減速しなければならない道路状態が多くあります。たとえば、急カーブの前や、路面が濡れているとき、路上に水溜まりができているときなどは減速しなければなりません。

あなたの車両は、タイヤだけが路面に接触しています。路面に対してタイヤのグリップがよい状態にあるかは、タイヤ及び路面の状態と種類によって変化します。

ドライバーの中には、タイヤや路面の状態にあまり注意を払わない人も多くいます。タイヤの状態がよく、十分空気が入っていることが大切です。車両の操作マニュアルを見て、正しい圧力を調べます。

砂利道や舗装されていない道路では、コンクリートやアスファルトの道路よりも静止摩擦が少なくなります。砂利道や舗装されていない道路を走行するときは、減速しなければなりません。このような道路では、方向転換の際に大変横滑りしやすくなり、停止するのにずっと長い距離を必要とします。

カーブ - 車両は、カーブよりも直線の道路で、より速く走行することができます。カーブでは、速度を出しすぎるのは容易ですが、タイヤが道路をグリップしにくくなるため、車両が横滑りを起こしてしまいます。カーブに入る前にはいつも減速して、カーブで急ブレーキを踏まないようにします。カーブで急ブレーキを踏むと、横滑りを起こす恐れがあります。

路面が滑りやすいとき - 雨、雪、あるいは凍雨が降り出したら、すぐに減速します。このような天候の時は、すべて路面が滑りやすくなります。路面が滑りやすいと、タイヤは、乾いた状態のときとは異なり、路面をグリップしにくくなります。どれぐらいゆっくり走行すればいいのでしょうか。濡れた路面なら、時速約10マイルほど減速します。押し固められた雪の上では、速度を半分に落とします。路面に雪が積もっているとき、および標識で装着が義務付けられている時はいつでも、スノータイヤあるいはチェーンを装着します。路面が凍結しているときの運転は、非常に危険ですので、そろそろと這うように運転しなければなりません。

可能であれば、路面が凍結しているときは、運転しないようにします。ワシントン州および他のいくつかの州では、冬の間、スタッドタイヤの使用が許可されています。引き込み可能なスタッドの付いたタイヤは1年通して使用できますが、スタッドは：

- 11月1日から4月1日までの間のみ使用可能です。
- 使用しないときはタイヤの磨耗表示バー (wear bar) の下に引き込まなければなりません。

一定の時間や箇所、路面が滑りやすくなる道路もあります。以下のヒントで、滑りやすい道路を見つけるのに役立ててください。

- 気温が低く、雨や雪の降っている日は、陰になっている場所が凍結しやすいものです。このようなところは、他の場所よりも一番早く凍結し、一番遅くまで氷が溶けません。
- 高架やその他の橋の類には、凍結しやすいスポットがあります。他の舗装道路では凍結していなくても、橋の上の舗装道路はよく凍結します。これは、橋の上の道路は、その下に土壌がないため、寒さに対する保温作用がないからです。
- 気温が氷点に近づくと、氷は溶けはじめて、氷点よりずっと低いときよりも、もっと滑りやすい危険な状態になります。
- 暑い日に雨が降り出すと、最初の数分間、路面はとても滑りやすくなります。熱でアスファルトのオイルが、表面に染み出してくるためです。雨でオイルが洗い流されるまで、路面はとても滑りやすくなっています。

路面に水があるとき - 雨が降っていたり、路面が濡れていたるときは、時速35マイルまでは、タイヤの静止摩擦がよく得られます。しかし、速度を上げるにつれ、タイヤはまるで水上スキーのように、溜まった水の表面にあがってしまいます。これは、「ハイドロプレーニング」と呼ばれます。強い雨が降っているときは、時速50マイルでタイヤは路面との摩擦を失います。表面がつるつるなタイヤや、擦り減ったタイヤではもっと低速で路面との摩擦を失います。ハイドロプレーニングを防ぐには、雨の中や路面が濡れているときに減速することが最もよい方法です。

タイヤと路面との接触コントロールを失ってしまったと思われるら、次のことを実行してください。

- アクセルの踏み込みを軽くします。
- ハンドルをまっすぐに保ちます。方向転換は、緊急時のみにします。どうしても方向転換しなければならないときは、横滑りを避けるため、ゆっくりと向きを変えます。
- タイヤが再び路面とのコントロールを得るまで、停止や方向転換しません。

交通の流れに合わせる

同じ方向に、同じ速度で、走行している車両どうしが追突することはありません。2台以上の追突事故は、同じ道路を走行中の他の車両よりも、速度が出過ぎているか、または低すぎるによく発生します。

交通の流れに合わせてペースを保つ - あなたの車両が他の車両よりも速く走行していたら、そのまま追い越しを続けることになるでしょう。しかし、追い越そうとする相手の車両が突然車線を変更したり、2車線の道路で急に対向車が現われたりすることがあります。減速して、他の車両とのペースを保ってください。

他の車両よりずっと低速で走行するのは、速度を出しすぎると同じくらい危険です。後続車が数珠つなぎになり、他のドライバーがあなたを追い越す原因を作ってしまいます。速度を上げるか、低速で走行できるほかの道路を利用するなど、考慮します。追越しが危険な2車線道路で低速度車両を運転している際、5台以上の後続車が数珠つなぎになった場合は、後続車が安全に追い越せる場所で道路の端に停止しなければなりません。

合流して道路に進入する - 合流するときは、方向指示器を出し、道路を走行中の車両と同じスピードで道路に入ります。通常、高速で走行できる道路にはランプがあり、合流に備えて速度を上げられるようになっています。ランプの終わりまで来て停止すると、他の車両の走行速度に達することが出来ません。また、後続のドライバーは、あなたが停止するとは予測しないので、後部に衝突してくるかもしれません。幹線に合流するためのスペースが空くのを待つ必要があれば、合流する前に加速できるよう、ランプの途中で減速します。

幹線道路から出る - 幹線道路走行中は、他の車両の速度に合わせます。その道路に出口ランプがあれば、出口ランプに到達するまで減速してはいけません。高速の2車線道路から出る際は、後続する車両があるときは急に減速しないようにします。ブレーキを軽く踏んでから、速く、しかも、安全に減速します。

低速走行の車両 - 車両には、あまり速く走行できないもの、または他の車両の速度についていけないものもあります。このような車両を早めに察知すれば、安全に車線変更したり、減速したりする余裕ができます。急な減速は、事故の元です。

- 大型トラックや小型の低馬力の車両が、急な坂道を走行していたり、あなたが走行する道路に合流してくる時には、注意してください。長い坂道や急な坂道で、このような車両は、長い坂道や急な勾配の坂道では減速し、合流の際には他の車両の速度に合わせて加速するのに時間がかかります。
- 農耕用トラクター、家畜牽引車、および道路工事用車両は、通常、時速25マイル以下で走行します。このような車両の後部には、低速走行車であることを示すステッカー（オレンジ色の三角形）を貼付けていなければなりません。

混雑する場所 - 歩行者や車両が集まるところでは、混雑を回避するスペースも制限されます。以下のような場所では、減速する必要があります。

- ショッピングセンター、駐車場、およびダウンタウン - これらの場所は、車両や歩行者が止まったり、前進したり、いろいろな方向に向きを変えたりする、通行の激しいところ です。
- ラッシュアワー - ラッシュアワーの間は、交通量が増え、ドライバーはこぞって急ぐようになります。
- 幅の狭い橋やトンネル - 対向する車両との間隔が狭くなります。
- 通行料金支払所 - 車両は車線変更をしたり、停止の準備をし、料金支払後は加速します。支払所を通過する前後は車線の数が変わることがあります。
- 学校、遊び場、および住宅地 - このような場所には子供が多く見られます。子供が左右を確かめずに道路を交差したり、飛び出したり、自転車に乗って道路に進入してくることがあるので、常に注意します。
- 踏切 - 電車が接近していないこと、また踏切を渡るのに十分スペースがあることを確認する必要があります。踏切によってはでこぼこな箇所もあるので、安全に渡るには減速します。
- 工事区間 - 警告標識、旗を使って交通整理を行なう人(フラガー)、他の車両に注意します。

周囲がどれほどよく見えているか

あなたの走行路になにか障害物があり、停止する必要があったら、停止に間に合うようにそれが見えていなければなりません。停止には、一般に考えられているより、もっと距離と時間がかかります。あなたのタイヤとブレーキが良い状態にあり、路面が乾いているとすると、次のようになります。

- 時速50マイルでは、物体に気づき、停止するまでに約400フィート必要です。市内のおよそ1ブロック間の距離に相当します。
- 時速30マイルでは、気づいてから停止まで200フィート必要です。これは、市内のおよそ半ブロックに相当します。

400フィート前方が見えていなければ、時速50マイルでは安全に走行できないこととなります。200フィート前方が見えていなければ、時速30マイルでも安全に走行できないかもしれません。前方に物体が見えた時には手後れになり、衝突を避けられない恐れがあります。

次に、あなたの周囲がよく見えなくなるような物や状況、またその場合の安全運転のヒントを挙げます。

夜間 - 夜間はあたりが見えにくいものです。日中と比べて、夜間は、物体に接近しないと見えるようになりません。現在地から、ヘッドライトで照らして見える距離内で停止できなければなりません。ヘッドライトをつけると、およそ400フィート先まで見えます。この距離内で停止できる速度、または時速およそ50マイルで走行します。

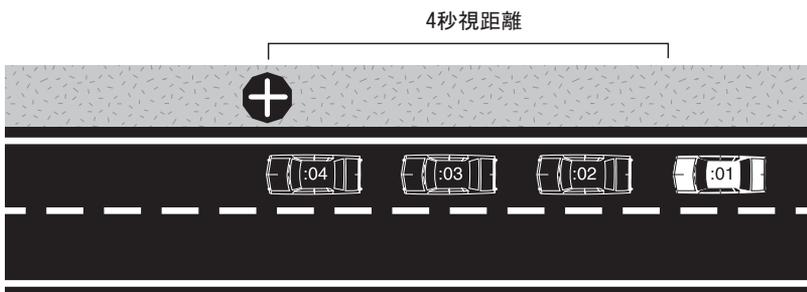
雨、霧、または雪 - 大雨、吹雪、あるいは濃い霧になったときは、およそ200フィート以上先が見えないかも知れません。それ以上先が見えないときは、時速30マイル以上で安全運転できません。土砂降りのときは、運転するには視界が悪すぎるかもしれません。このような場合は、道路脇の安全な場所にそれて、雨が止むまで待ちます。

坂道やカーブ - 坂道やカーブでは、たとえその道を何度も走行したことがあっても、その向こう側に何かあるかわかりません。坂を越えたところやカーブの向こう側に、エンストした車両が停めてあったら、あなたは停止できる状態でなければなりません。向こう側に何かあるかわからないような坂道やカーブのところに来たら、減速して、必要なときに停止できるようにします。

駐車中の車両 - 道路脇に駐車してある車両は、あなたの視界を妨げるかもしれません。また、駐車してある車両から、または駐車してある車両と車両の間から、人が出てくるかもしれません。駐車してある車両との間には十分スペースを取ってください。

視距離のルール - 常に安全に停止できる速度で運転します。異なる状況において、速度を出し過ぎているかどうかを知るには、「4秒視距離ルール」を実行します。前方がはっきりとみえる距離内の、一番遠くに静止している物体（標識や電柱）を目印にします。次に、「one-one-thousand, two-one-thousand, three-one-thousand, four-one-thousand」と数えます。「four-one-thousand」と言い終わるまでに、目印の物体のところに到達したら、減速する必要があります。視距離の規則に対して、速度を出しすぎているからです。

また、4秒視距離ルールは夜間にも実行し、ヘッドライトで照らした距離以上に速度を出さないよう注意します。



制限速度 - 制限速度に従います。制限速度は、道路の設計や道路を通行する車両の種類に基づいて、設定されています。突然車が飛び出してくるような路地やドライブウェイなどドライバーから見えない状況や、交通量も考慮に入れられています。

ただし、制限速度は、理想的な状態を考慮して示してあることを忘れないでください。路面が濡れていたり凍結している場合、周囲がよく見えなかったり、あるいは交通渋滞がおきている場合には、減速しなければなりません。たとえ標識上の制限速度で走行していても、このような状況においては、スピード違反切符を切られることがあります。

スペースを共有する

道路は、常に他人と共有しなければなりません。あなたと他の人の間に、距離を置けば置くほど、非常事態に反応する時間が持てます。このスペースは安全クッションのようなもので、スペースが広いほど、より安全に走行できます。このセクションでは、運転中に十分なスペースを確保する方法を説明します。

前方のスペース

後部追突は、たいへん頻繁に発生します。先行車との車間距離が短すぎると、先行車が急に減速したり、停止した場合、停止に必要な時間が十分ありません。時速30マイル以下で運転しているときは、車間距離が2～3秒あれば十分かもしれませんが、それ以上の速度で運転している場合は、「4秒ルール」を使います。

- 先行車の後部が標識、電柱、またはその他の静止している物体を通り越すのに、注意します。
- あなたが、その物体のところに、到達するまでの秒数を数えます。（「one-one-thousand、two-one-thousand、three-one-thousand、four-one-thousand」）
- 数え終わるまでに、あなたがその目印を通過したら、あなたは先行車に接近しすぎています。
- その場合は減速し、別の目印を使って秒数を数えて、新たに前方の車間距離を調べます。4秒以内で後続しなくなるまで、このステップを繰り返してください。

場合によっては、前方にこれ以上の車間距離が必要になることもあります。次のような状況においては、安全運転のために、より車間距離を取る必要があります。

- 滑りやすい路面 - 滑りやすい路面では、停止するまでもっと距離が必要なため、前方の車間距離を、より大きく取らなければなりません。先行車が急停車したときに、安全に停止できるよう、余分に車間距離が必要になります。
- 後続のドライバーがあなたを追い越そうとする場合 - 減速し、前方により大きく車間距離を取ります。減速すると、そのドライバーがより早く追い越しを完了できます。

- 自動二輪車の後ろを走行しているとき - もし自動二輪車が転倒したら、そのライダーを避けるために、余分な距離が必要となります。濡れた路面、凍結した路面、砂利道、あるいは、橋、すのこ状の鉄板、路面電車や普通電車の線路などの金属の表面を走行するときは、転倒する確率が最も高くなります。
- あなたの車両が見えないドライバーの後ろを走行するとき - ट्रック、バス、バン、あるいはキャンピングカーやトレーラーを牽引する車両などのすぐ後を走行していると、それらのドライバーからは、あなたの車両が見えないかもしれません。あなたが後続しているのを知らずに、急停車する可能性があります。また、大型車両は、あなたの走行する前方の視界を妨げてしまいます。車間距離を大きく取ると、前方がよりよく見えるようになります。
- 積載物が重いとき、またはトレーラーを牽引しているとき - 余分な重量のため、あなたの車両が停止するまでの距離が長くなります。
- あなたの前方がよく見えないとき - 夜間や、悪天候で前方がよく見えないときは、前方の車間距離をより大きく取る必要があります。
- 後続車があなたに接近しすぎている場合 - 後続車があなたに接近しすぎている場合は、その距離を広げます。そうすると後部に追突されずに停止できるようになります。
- 緊急車両の後ろを走行しているとき - パトロールカー、救急車、および消防車の運転には、もっとスペースが必要です。消防車の後ろには最低500フィートの距離をおきます。
- 踏切に接近しているとき - 踏切では、公共輸送用バス、スクールバス、または危険物積載車両など、踏切で一旦停止をしなければならない車両の後ろに車間距離を大きく取ります。
- 坂道や上り傾斜のある道路で停止するとき - 坂道や上り傾斜のある道路で停止するときは、余分に車間距離を取ります。先行車が前進するときに、バックしてることがあります。

後方のスペース

後続のドライバーとの間に安全な車間距離を維持するよう、一定速度を保ち、方向転換の際には前もって合図します。

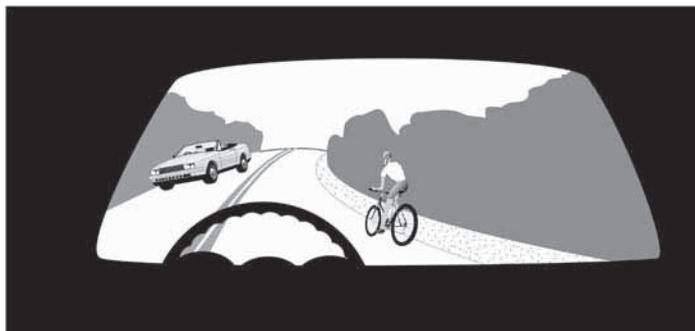
- 同乗者の乗り降ろしの為の停止 - 他の車両から離れ、安全なところで停止します。
- 縦列駐車 - 縦列駐車の際に後続車がある場合、方向指示器を出してから、駐車したいスペースの横にいったん車を止め、後続の車両を先に通過させてから駐車します。
- 低速で運転する - 他の車両を減速させるほど低速で運転しなければならないとき、安全を確認してから道路脇に寄って、他の車両があなたの車両を追い越せるようにします。場所によっては、退避所を設けた2車線の道路があります。また、追い越し車線を設けた2車線道路もあります。
- 後続車がぴったりついて運転しているとき - 後続車があるあなたに接近しすぎているとき、右車線があればそちらに車線変更します。右車線がなければ、前方が空くまで待つから徐々に減速します。こうすることで、あなたに接近しすぎているドライバーに、あなたを越えて走行するよう促すことができます。ただし、車間を取るよう促すために急に減速すると、後部に追突される確率を高めることになるので、急な減速は、してはいけません。

左右のスペース

方向転換や車線変更ができるよう、車両の左右にスペースを保つことが必要です。

- 複数車線の道路では、他の車両、特に大型トラックと並んで運転することは避けます。あなたとの車線ギリギリを走行したり、車線変更してあなたに接近する車両があるかもしれません。他の車両より、加速するか、減速します。
- 対向車との間にできるだけスペースを保ちます。2車線の道路でセンターラインのギリギリのところを走行してはいけません。通常、あなたの車線の中央を走行するのが最も安全です。
- 2車線以上の道路で進入してくる車両のために、スペースをあけます。あなたの隣の車線に車両が走行していなければ、車線変更してください。

- あなたと、駐車してある車両の間に余分にスペースを保ちます。駐車してある車両から人が出てきたり、車両の間から人が出てきたり、また駐車してある車両が移動を始めることもあります。
- ライトを点滅したり、サイレンを鳴らして停車しているレッカー車や牽引サービス車、救急車両またはパトロールカーに近づく際は注意します。4車線以上あるハイウェイでは、2車線は一方に進む車線となっており、安全に車線変更、またはこれらの停止している車両から離れることができる場合はそのようにします。4車線未満のハイウェイでは、減速し、安全に左側を追い越せる場合はそうします。
- 歩行者や自転車に乗った人、特に子供に対して余分にスペースを保ちます。何の合図もなく、急に車道に飛び出してくることがあります。歩行者や自転車に乗った人と同じ車線を走行してはいけません。隣の車線に入って、安全に追い越せるまで待ちます。
- 2つの危険な状況下で臨機応変に行動します。たとえば、対向車と駐車してある車両の間を走行している際、その中間を走行します。一方の危険性がより高ければ、そちらの方に余分にスペースを取ります。例えば、トラクタートレーラーが対向してきた場合は、その車両が通過する側に余分にスペースを取ります。
- できれば、危険な状況を1つずつ回避します。たとえば、自転車を追い越そうとしている時、同時に対向車が接近していれば、減速して対向車が通過するまで待てば、自転車との間にスペースを取ることができます。



合流するときのスペース

他の走行車両と合流するときには、常に約4秒の距離が必要です。4秒の距離の真ん中に入ると、あなたと後続車の間には2秒の距離しかありません。車線変更や、道路に進入する場合、または他の車両が走行する車線と合流する場合には、常に4秒の距離が必要です。

- 車間距離の短いスペースに進入しようとしてはいけません。狭い車間距離がさらに狭くなるのに時間はかかりません。安全な、スペースの十分ある車間に進入します。
- 数車線を横切るときは、1車線ずつ横切ります。階段を1段ずつ上がったり降りたりするのと同様に、1車線ずつ車線変更する方が安全で簡単です。
- 他の車両があなたの車線に合流しようとしている場合、その車両にスペースを与えるために、安全であれば他の車線に移ります。

交差または進入時のスペース

道路を交差するとき、向こう側まで到達するために、交差する交通の途切れが十分なければなりません。道路に進入するときは、まず右折/左折を行ってから加速できるのに必要なスペースが必要です。

- 道路を交差するとき、向こう側まで到達するために、交差する交通の途切れが十分なければなりません。途中で停止しても安全なのは、あなたの車両が十分入れるぐらいの中央分離帯がある時だけです。あなたの車両の一部でも車道に突き出すようであれば、分離帯で停止してはいけません。
- 左折の際は、他の車両や歩行者が、進入路をさえぎっていないことを確認します。進入路に他の車両や歩行者などの障害物がなくなるまで、他の車両があなたの車両に接近してくる車線で待つことは危険です。
- あなたの進行方向をさえぎる車両がある場合は、信号が青でも、交差点に進入してはいけません。交差点の中で待っている間に、信号が赤になってしまうと、他の車両が通行できなくなります。交差点で車両の通行をさえぎると、違反切符を切られることがあります。

- 他のドライバーがあなたとスペースを共用するとか、あなたにスペースを譲るとか仮定してはいけません。たとえば、接近してくる車両の方向指示器が点滅しているからといって、それを当てにしていけません。そのドライバーは、あなたの車両を通過してから方向転換するつもりかもしれませんが、あるいはすでに方向転換して、指示器を切るのを忘れていただけかもしれないからです。自動二輪車の多くは、方向指示器が自動的に切れないので、特に注意が必要です。他のドライバーが実際に方向転換し始めるまで待ち、それから行動をとります。
- 踏切を横切るときは、線路上で停止する必要がないことを確認します。

追い越しに必要なスペース

追い越し可能の標識や路上のマークがあるときは、常に安全に追い越しができるかどうか判断する必要があります。一度に数台の車両を追い越せる時間があると過信してはいけません。安全第一です。一般的な規則として、追い越しは一度に1台だけです。

- 対向車 - 時速55マイルでは、他の車両を追い越すには約10秒必要です。対向車と追い越しのできる視距離に10秒のギャップが必要です。安全に追い越しのできるスペースがあるかどうかを判断しなければなりません。2車線道路で他の車両を追い越すときは、あなたの車両と追い越した車両の間に十分なスペースがあることが確認できた時点で、道路の右側の車線に戻らなければなりません。

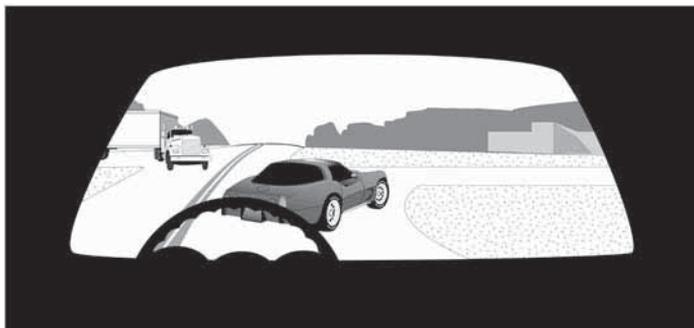
時速55マイルでは10秒間に800フィートを超える距離を移動し、対向車も同様に移動します。これは、安全に追い越しをするには、あなたには1600フィートを超える距離、またはおよそ1/3マイルが必要だということです。これほど距離があると、対向車の時速を判断するのは困難です。対向車が、実際の速度よりゆっくり接近しているように思えたりします。

遠くに見える車両は、概して、まるで静止しているかに見えます。事実、対向車が実際に接近しているのが見えたら、あなたにとっては近すぎて、もう追い越しはできません。確かでない場合は、対向車が通過し、十分スペースが取れるまで待ちます。

- 坂道やカーブ - 前方の視界は距離にして最低1/3マイルもしくは時間にして約10秒なければなりません。カーブや坂道で視界がさえぎられているときは、常に、見えないところに対向車が通行中であると仮定します。坂道やカーブまでの距離が1/3マイルない場合は、追い越しを開始してはいけません。
- 交差点 - 進入または交差しそうな車両のある道路での、車両の追い越しは危険です。このような場所は、交差点、踏切、およびショッピングセンターの入り口などです。追い越しの最中は、歩行者、車両、または電車が、あなたが追い越している車両にさえぎられてよく見えないことがあります。また、あなたが追い越しに利用する車線へ右折進入しようとする車両のドライバーは、そこにあなたがいるとは思っていません。そればかりでなく、あなたの方を見ないで右折するかもしれません。

大型トラック、バス、およびトレーラーを牽引する車両は大きくスイングし、方向転換の際にセンターラインを横切らなければならないことがあります。交差点ぎりぎりのところで停止したり、このような車両を、特に右側から追い越してはいけません。

- 車線制限 - 追い越しを始める前に、路面の状態や、他の車両があなたの車線に進入してくるような交通状況に注意して、前方を見ます。次のような状況で、追い越しに必要なスペースを失うことがあります。
 - 歩行者または自転車に乗った人が道路のそばを通行している。
 - 幅の狭い橋またはその他の車線の幅が狭くなるような状況。
 - 路面に凍結した箇所、深い穴、あるいは障害物などがある場合。



- 元の車線に戻るためのスペース - 走行車線に戻れるだけのスペースがない限り、追い越しをしてはいけません。他のドライバーがあなたのためにスペースを空けてくれると仮定してはいけません。
- 踏切 - 前方に踏切がある場合は、追い越しをしてはいけません。

走行車線に戻るときは、あなたの車両と追い越した車両の間に十分スペースがあることを確認します。バックミラーで追い越した車両のヘッドライトが両方とも見えたら、走行車線に戻っても安全です。

自転車とのスペース

道路上の自転車の安全は、車を運転している人と自転車に乗っている人の双方の責任です。自転車に乗っているすべての人にも、車を運転しているドライバーと同じ権利、義務、責任があります。交通法に従わない場合、ドライバーも自転車に乗っている人も、違反チケットを切られることがあります。

自転車と道路を共用する - アメリカで毎年、39,000人を越える人が自転車に乗っている時に負傷または死亡しています。ドライバーも自転車に乗っている人も、下記の州の交通法を理解し、従えば、皆が道路を安全に使えます。

- 路上に横断歩道の印が記されているかどうかにかかわらず、自転車が道路を横断中で、あなたの走行道路から1車線以内にいるとき、停止しなければなりません。(通行権のセクションの図を参照)
- 道路を横断するために歩道を横切るとき、ドライバーは歩道を走行中の自転車に道を譲らなければなりません。歩道または横断歩道を走行中の自転車には、歩行者と同じ権利と義務があります。地方により自転車が部分的に歩道を走行できない場合があります。
- 自転車専用レーンは白い実線で記されています。自転車専用レーンを走行中の自転車に道を譲らなければなりません。右折/左折する時、路地、私道、ドライブウェイへの出入りの時、または歩道の縁のそばに駐車するために自転車専用レーンを横切る時以外は、自転車専用レーンを運転してはいけません。自転車専用レーンには駐車してはいけません。

- 交差点では、他の車のドライバーに道を譲る時のように、自転車に乗っている人にも道を譲らなければいけません。
- 自転車に追いつき、追い越すときには、最低 3フィート(1メートル)のスペースが必要です。
- 右側の路肩を歩いている歩行者または自転車専用レーンを走っている自転車を追い越す場合は、確実に接触しない距離を開けて、その左側から追い越します。完全に追い越したことが確認できるまで、道路の右側には戻らないようにします。
- 道路、路肩、または自転車専用レーンの幅や状態が危険な場合、反対方向から歩行者または自転車が来たら、道路の左側は走らないようにします。
- 歩道の縁に駐車する時は、ドアを開ける前に、車、自転車、歩行者がいないことを確認します。
- 自転車は車道、道路の端、自転車専用レーン、または歩道を走行する選択ができます。自転車は歩道内や横断歩道内では歩行者に道を譲らなければなりません。歩行者を追い越すときは、ベルを鳴らして知らせます。
- 自転車は、違法の標識がない限り、フリーウェイやハイウェイの路肩を使用することもできます。
- 自転車は、道路のできるだけ右側に近く、安全な所を、交通の流れに沿って走ります。左折／右折の前や左折／右折をしている間、あるいは他の自転車や車両を追い越す時に、左へ移動することが許されています。フリーウェイ以外の一方通行の道路では、自転車は、安全であれば道路のできるだけ左側近くを走ってもかまいません。
- 自転車では、右折左折する前にハンドシグナルを行わなければなりません。
- 自転車に乗っている人と同乗者には、それぞれの座席がなければいけません。
- 自転車に乗っている人は、他の車両につかまったり、引っ張られたりしてはいけません。

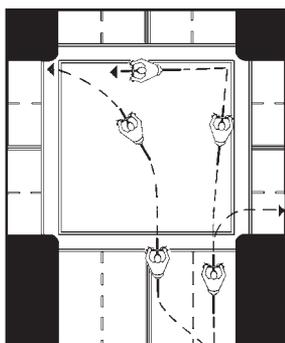
- 自転車専用レーンでは、自転車は複数の列で走行してもかまいません。公道では、1列または2列で走行できます。
- 自転車に乗っている人は、片手がいつもハンドルを握っていないければ、荷物を運んではいけません。
- 夜間に自転車に乗るときは、500フィート先から見える白いヘッドライトと、600フィート後ろから見える赤いリフレクタを自転車に装備しなければいけません。赤いリフレクタに加えて、点滅するテールライトや赤く点灯するテールライトも使用できます。
- 自転車には、乾いた、平らな、きれいな舗装道路でブレーキをかけたときに、タイヤが止まるようにブレーキが装備されていなければなりません。

州法に加え、下記のことを実行することにより、車を運転している人と自転車に乗っている人のけがや衝突事故を減らすことができます。

- 子供の指導 - 親は子供に交通安全および安全な自転車の乗り方を教える責任があります。子供は成人と違い、わきをよく見ることができなかつたり、動いている車両の速度や距離を判断できず、また危険感覚が欠けていることがあります。いつも自分で確認することが何より大切であることを、繰り返し教えてください。
- 自転車を探す - 交差点での進入や左折 / 右折の前には、交差点をさっと見て、必要であれば自転車に道を譲ります。車線変更、左折/右折、バックするときは、通常の視界以外もよく見て、自転車がいないかどうかを確認する必要があります。
- 自分の自転車が安全であることを確かめる - ペダル、シート、ハンドル、ブレーキは常に良い状態で、きちんと作動していること。あなたの自転車が安全かどうか自転車屋で確認してもらえます。
- 全ての交通法に従う - ほとんどの自転車と車の衝突事故は、交通法の違反が原因です。自転車に乗っている人は、交通法に従うことにより、ドライバーに、いつ、どちらの方向に行くか教えることとなります。ドライバーは自転車に適応される法律を知る責任があります。

- 自転車用ヘルメットをかぶる - CPSC、Snell、またはATSM認定のヘルメットは全ての自転車に乗る人に、推奨されています。自転車が関係した死因のほとんどは、頭の怪我です。ヘルメットは、頭にしっかりと合うようにかぶり、きちんと調節して使用しないと、その役目を果たしません。ヘルメットのひもをほどかずに脱げるようなら、調節が必要です。事故をした場合は、新しいヘルメットが必要です。
- 目立つものを身につける - 明るい色または蛍光色の服装やアクセサリを身につけ、ヘルメットと自転車には反射テープを貼ってください。
- 自分の行動を他の人が推測しやすいように、かつ、防御的に走る - 「パーキングレーン」を縫うように走ることは避けます。駐車している車のドアが開いて道が遮られないようにするために、駐車している車と自転車の間に3フィートのスペースを取ります。
- 危険物がないか路上をさっと見る - 濡れた路面、凍結した路面、薄暗い部分、排水溝、穴、線路に注意し、状況に合った速度で走行します。道路に進入する場合や道路を横断する場合は、常に歩行者や走行車両が優先します。
- 自分の行動に責任を持つ - グループで自転車に乗っているときは、前の自転車に続くのではなく、自分の行動に気をつけます。
- 交通の流れに逆らわない - 車を運転している人は、間違った側を走る自転車がいるかどうか見たり、そのような自転車がいるとも思っていません。
- まっすぐ走る - できるだけまっすぐに、交通の右側を走ります。駐車中の車のそばでは、車のドアの幅の距離を空けます。
- 右側から追い越さない - 交差点では車の右側から追い越してはいけません。右折する車のドライバーが、右側から追い越してくる自転車を確認しないかもしれません。
- 道路の脇から出てくる車に気をつける - 自転車に乗っている人がドライバーの目を見ている、ドライバーには自転車が見えていないかも知れず、自転車の前に出てくるかも知れません。

- 右折/左折 - 左折のときは、自転車は左車線または左折用車線を使用します。または、右車線にいたまま道を横断し、右のコーナーで止まります。自転車は交通の流れに従って進んでも、信号が青に変わったときに渡ってもどちらでもかまいません。



- 背後の道路をさっと見る - バックミラーを使っても、バランスをくずしたり、左に曲がったりせずに、肩越しに後ろを見れるように練習します。
- 両手はブレーキをかける準備をしておく - 十分早く止まれるようにするには、両手が必要です。雨の日や濡れた道では、停止に余分の距離を持つようにします。ブレーキは濡れていると、ちゃんとかからないかもしれず、タイヤはより一層スリップしやすくなります。
- 犬に気をつける - 犬は車輪や脚が回るのが好きです。犬が自転車を追いかけ始めたら、無視するか、しっかりとした大きな声で、「NO!」とどなります。それでもまだ犬が止まらないようであれば、自転車から降りて、自転車をあなたと犬の間に置きます。

特殊な状況でのスペース

特定の車両や道路利用者には、余分にスペースが必要です。以下にその例を挙げてあります。

あなたの車両が見えない人 - あなたの車両が見えなければ、あなたに気づかずにその走行路に進入してくる可能性があります。あなたの車両が見えない人の例を挙げます。

- 建物、木、その他の車両で視界がさえぎられている交差点やドライブウェイにいるドライバー。
- バックしながら道路に進入してくる場合や、バックしながら駐車スペースに入ったり出たりする場合。
- ウィンドウが雪や氷で覆われていたり、あるいは蒸気で視界が悪い車両のドライバー。
- 顔を覆うように傘をさしていたり、帽子を深くかぶっている歩行者。
- 交通の流れと同じ方向に歩いている歩行者。あなたの車両に対して、背を向けているので、あなたの車両が見えません。

注意を怠っている人 - 人からあなたの車両が見えていても、注意を怠っているかも知れないと思われる場合は、余分にスペースを空け、更に注意を払います。次のような人は、注意を怠っているかも知れません。

- 配達業者
- 建設工事作業員
- 子供
- 自己の運転に注意を払っていないドライバー

判断に迷っている人 - 判断に迷っている人は危険です。次のような場合がそれに該当します。

- 旅行者など、どこに向かっているのかわからないような人
- 理由なく速度を落としているドライバー
- 道の標識や住所を探しているドライバー。

トラブルに巻き込まれているドライバー - 他のドライバーが、あなたを追い越す際にミスをした時、それ以上、事態を悪化させてはいけません。そのドライバーが安全に走行車線に戻れるように、減速します。他のドライバーが、突然、車線変更が必要になったら、減速し、合流させます。このようなマナーで、交通の流れをなめらかに、かつ安全に維持することができます。

良好な健康状態で運転する

安全運転をするのは、必ずしも容易ではありません。実際、安全運転は、人々の行為の中でも、最も複雑なことの1つなのです。また、傷害や死亡の可能性のある、日常的な行為の1つでもあります。ですから、安全運転をするドライバーになる努力をする意味があります。

安全運転をするドライバーになるには、優れた運転技能と判断が必要です。これは、運転を習いはじめている人には、より困難なことです。運転するには、あなたの持っている能力すべてが、必要となります。何かが起こり、あなたの能力がすべてよい状態にない場合は、安全運転のできるドライバーではないかもしれません。安全なドライバーであることは、はっきりものが見えること、過労でないこと、薬物や酒類の影響下で運転しないこと、一般的に健康状態が良好で、感情面でも運転に適していることです。言い換えれば、安全運転のために良好な健康状態を保つことはあなたの責任です。

視力

視力が良いことは、安全運転には必須条件です。あなたの運転は、あなたに何が見えるかに依存しています。もしよく見えなければ、交通の流れや路面の状態を識別すること、危険の可能性に気づくこと、タイムリーに反応したりすることが難しくなります。

視力は大変重要なため、運転免許証を取得する前に、視力検査に合格することが法律により義務づけられています。この検査により、裸眼または眼鏡をかけた状態で、少なくとも片目で20/40の視力があることを測定します。

視力について、その他の重要な点は次の通りです。

- **側面の視野** - 目の角で物が見えることが必要です。側面の視野により、あなたが前方を見ている一方、あなたの車両の左右どちらかに、車両や危険性のあるものが見えるのです。横にあるものには焦点を当てられないので、必要であれば、サイドミラーを使用して、横をさっと見たりしなければなりません。

- 距離や速度を判断する - よく目が見えても、距離や速度を正しく判断できない可能性があります。あなただけではなく、多くの人にとってこれは簡単にできることではありません。この両方を正しく判断できるようになるには練習が必要です。合流や2車線の道路で追い越しをする際に、他の車両との距離や安全なスペースを見極めたり、線路を安全に渡れるよう電車の速度を判断するうえで、これは特に重要です。
- 夜間の視力 - 夜間は、日中よりも目が見えにくくなります。中には、特に対向車のヘッドライトにより、夜間にギラギラする光線で目が見えにくくなるドライバーもいます。夜間に目が見えにくければ、必要以上に夜間の運転をせず、また、運転の際は十分注意を払います。

よく目が見えることは、安全運転にとって大変重要であるため、1年あるいは2年毎に眼の専門家による視力検査を受けなければなりません。検査を受けない限り、視力が落ちていてもわかりません。

運転に眼鏡やコンタクトレンズが必要な場合は、次の事柄をよく覚えておいてください。

- 運転するときは、家の周辺であっても、必ず眼鏡やコンタクトレンズを着用します。あなたの運転免許証に、眼鏡やコンタクトレンズの着用が必要であると記載されているにもかかわらず、着用せずに運転して警官に止められた場合は、違反切符を切られることがあります。
- 車内に予備の眼鏡を保管しておいてください。通常着用している眼鏡が壊れたり、紛失しても、この予備の眼鏡で安全に運転できます。常に眼鏡を着用していない人は、眼鏡を紛失することが多いかもしれないので、こうしておくのが安全です。
- 暗い色の眼鏡や、色付きのコンタクトレンズは、夜間にギラギラする光線を見るのに役立つと思っても、着用を避けます。このようなレンズは、あなたが必要とする光線まで遮断してしまいます。

聴力

聴力は、安全運転に非常に役立つことがあります。クラクション、サイレン、あるいはタイヤのきしむキーツという音で、危険に気づくことがあるからです。視力が悪くなるのと同様に、聴力もゆっくりと悪くなるので、聴力に問題があっても、気づかずにいるかもしれません。耳が不自由だったり、聴力に障害のあるドライバーは、聴力を調整して安全なドライバーになることができます。このようなドライバーは、その他のドライバーと比較して、より視力に頼り、かつ、より注意を払う傾向にあります。調査によると、聴力障害のあるドライバーは、そのような障害のないドライバーと同じ程度に良い運転記録を残しています。

疲労

疲労を感じる時は、よく休息を取った後のように、安全に運転することができません。目が見えにくく、注意も散漫になります。判断をする時間がより長く必要になり、また正しい判断ができるとは限りません。イライラしやすくなり、容易に腹が立ったりします。疲れていると、ハンドルを握ったまま居眠りをしてしまい、追突事故を起こして、自分や他人の傷害や死亡を招いてしまうことがあります。

長距離運転で疲れにくくするために、次の事柄が役立ちます。

- 前夜はいつも通りの睡眠をとります。
- すでに疲労を感じていたら、出発してはいけません。計画を立て、休息を取ってから出発するようにします。
- 眠気を誘うような薬を服用してはいけません。
- 軽く食べます。出発前にたくさん食べてはいけません。たくさん食べた後、眠気を感じる場合があります。
- 休憩を取ります。1時間毎に、あるいは必要だと思ったら休憩します。歩き回ったり、新鮮な空気を吸い、コーヒー、ソーダ、またはジュースを飲んだりします。数分間の休憩が、あなたの生命を救うことになるかもしれません。十分時間をかけて、目的地に到着するように計画します。

- 通常は就寝中の夜間遅い時間は、運転しないでください。あなたの体は睡眠をとる時間だと思い、寝るように仕向けるからです。
- 眠いときは決して運転してはいけません。停止して数時間睡眠をとるほうが、起きていようとするよりも安全です。できれば、同乗している他のドライバーと運転を交代し、他の人が運転中に睡眠をとるようにします。

飲酒運転

酒類は、死亡者の出た交通事故の約40パーセントと関係があります。たとえ少量でも飲酒すると、衝突事故に関わる確率は、まったく飲酒しないときよりもずっと高くなります。長年の運転経験があっても、飲酒して安全運転のできるドライバーはいません。

飲酒運転は大変危険なため、処罰は大変厳しくなっています。飲酒運転をするドライバーは高額の罰金、保険掛け金の増額、運転免許証の没収、および刑務所行きになる賭けをしているのです。

飲酒運転はなぜ大変危険なのか

アルコールは、安全運転に必要な、すべての重要な技能を低下させます。アルコールは胃から血液に入り、全身に回って、20～40分で脳に達します。アルコールは、脳の中の判断と技能をコントロールする部分に影響を及ぼします。飲酒が危険なのは、アルコールがあなたの判断力に影響を及ぼすためです。ある意味では、アルコールは正しい判断力を保留状態にしてしまうのです。手後れになるまで、飲みすぎたかどうかはわかりません。日焼けと少し似ており、感じるようになった時には、もう遅すぎるのです。

アルコールは反射神経と反応時間を遅らせ、視力や注意力を低下させます。体内のアルコール分が増加するにつれ、判断力が鈍り、技能も低下します。距離、速度、他の車両の動きを判断しにくくなり、あなたの車両をコントロールすることも困難になります。

飲酒したら、いつ運転できるのか

飲酒したら、運転をしないというのが最良のアドバイスです。1杯のアルコールでもあなたの運転に影響が出ます。2杯以上のアルコールがあなたの体内で検出されると、運転の適性が減じ、逮捕されることがあります。

通常アルコール1杯とは、80プルーフの蒸留酒1.5オンス（ショットグラス1杯）のストレートあるいはミキサー入り、またはビール12オンス（普通サイズの缶、ボトル、マグ、またはグラス）、またはワイン5オンスを指します。特殊ドリンクは更にアルコール分が高く、普通のドリンクの数杯分と同量のアルコールを含みます。

体がアルコール1杯を消化するのに、およそ1時間かかります。早く酔いを覚ます方法はありません。コーヒー、新鮮な空気、運動や冷水のシャワーなど何も、役に立ちません。時間だけが酔いを覚まします。

社交的な場での飲酒に対処する方法はいくつかあります。2人以上と一っしょにパーティーなどに出席し、あらかじめ飲酒しない人を決めます。そのグループ内で交代して「指定ドライバー」になったり、公共輸送機関やタクシーの利用も可能です。

アルコールと法律

飲酒運転で逮捕されると、厳しい処罰を受けます。血液中のアルコール濃度[blood alcohol content (BAC)]が0.08以上の状態で運転すると逮捕されます。ワシントン州では、ドライバーが21歳未満であれば、BACが0.02以上のアルコールによる障害のため逮捕されます。BACは、血液中のアルコール含有率で、酒気検査、血液検査、あるいは尿検査で測定されます。BACのレベルが上記の値より低い場合でも、酒類や薬物が理由で運転できる状態ではないのに運転していた場合[driving under the influence (DUI)]は、逮捕されます。

黙示的同意法は、車両を運転するにあたり、血液中のアルコールまたは薬物の含有量測定のため、酒気検査または血液検査を受けることに同意していることを意味します。警察官あるいは交通巡査にBAC検査を要請されたら、必ず検査を受けなければなりません。もしBAC検査を拒否すると、最低1年間運転免許証を失うことになります。

飲酒運転に対する刑罰は逮捕から始まります。

- 7年間のうちの初めての逮捕で、酒気検査または血液検査でBACが0.08以上(21歳未満であれば0.02)であれば、免許は90日間保留になります。制限付きの運転免許証を入手できる場合もあります。その場合、イグニッション連動装置が装備されている車両だけを運転できます。
- 初めての逮捕で、酒気検査または血液検査を拒否した場合、免許は1年間取消しになります。
- 7年間のうちに一度より多く逮捕されると、免許は2年間取り消しになります。21歳未満であれば、免許は1年間もしくは21歳になるまでのどちらか長い方の期間、取り消しになります。

上記すべての場合において、また刑罰が有効となる前に、審問を要請できます。制限付きの運転免許証が発行されると、あなたは審問を要請する権利を放棄することになります。

アルコール関連の違反は生涯運転記録に保存されます。運転できる状態ではないのに運転をしたと法廷で判定された場合、最初の有罪判決では最高5,000ドルの罰金および裁判の費用とその他の刑罰が課されます。また、最高365日までの禁固刑を課され、運転免許証は90日～1年間保留あるいは取り消しとなります。以前に酒類の違反で有罪となっていれば、最高150日間の自宅監禁や運転免許の最高4年間の保留あるいは取り消しを初めとする、その他の刑罰が科されます。

その他の処罰には次のようなものがあります。

- 保険の必須証明書 (SR22提出)
- 運転免許証再申請、筆記試験および路上試験、および再交付手数料150ドル
- 車両の没収および
- 最高10年間にわたりイグニッション連動装置を使用すること。逮捕時に16歳未満の同乗者がいた場合、さらに60日間が追加されます。

「開缶持込取締法」により、次のような行為は違反とみなされます。

- ハイウェイ上の自動車内でいかなるアルコール飲料を飲むこと。
- ハイウェイ上の自動車内で、いかなるアルコール飲料の入った容器を所持しており、その容器が開けられている、密閉容器の封が開けられている、または容器の中身が一部除去されている場合。
- アルコール飲料の元の容器に不正なラベルを貼る、非アルコール飲料のラベルのある容器にアルコール飲料を注入した、またはそのような容器を所持している場合。
- 車両所有者として登録してある者、あるいはドライバーがハイウェイ上の車内において、ふたの開いた容器を所持している場合。ただし、その容器が通常、車内でドライバーや同乗者の乗っていない場所に置いてある場合を除く。手の届く保管場所に、ふたの開いた容器を置いておくことは出来ません。

モーターホームやキャンピングカー内の生活空間には、例外が該当します。

執行猶予下での免許証

アルコールの影響下で、運転していたか又は物理的に車両をコントロールできる状態にいた、または、有罪判決を受け、執行猶予となっている場合、執行猶予下での免許証の使用が5年間義務づけられます。通常の免許証交付料のほか、執行猶予下での免許証は、通常の交付料に加え、発行時と更新時にも50ドル必要になります。

執行猶予

1999年1月1日付で、アルコール関連の軽犯罪は生涯1件のみ、執行猶予を受ける資格があることになっています。

飲酒運転の判決を受け、アルコール中毒、薬物中毒、精神障害などがある場合には、執行猶予を受けられる場合もあります。その場合は、アルコール中毒、薬物中毒、精神障害の認定されたプログラムを終えるまで、飲酒運転の有罪判決は延期されま

す。また、イグニションインターロックの使用や損害賠償保険の証明書などの、認可局および法廷から出された条件を満たさなければなりません。治療を終え、法廷から出されたすべての条件を満たせば、飲酒運転の容疑は却下されます。

薬物と運転

アルコール以外にも、安全運転の能力を低下させる薬物が多く出回っており、アルコールと同様、あるいはそれ以上の悪影響を及ぼします。これは、処方箋の必要な医薬品や処方箋なしで入手できる薬品にも該当します。頭痛、風邪、花粉症やその他のアレルギーの薬、あるいは鎮静剤などを服用すると、眠気を催し、運転能力に影響を与えることがあります。覚醒剤、ダイエット用錠剤などを服用すると、短時間は敏捷になりますが、その後、そわそわする、めまいがする、集中できないなどの症状が出る上、視力にも影響します。その他の処方箋の必要な医薬品では、反射神経、判断力、視力、敏捷性に、アルコールと同様の影響を及ぼします。薬物の影響下で運転をしていて逮捕されたり、有罪判決を受けた場合の刑罰は、酒類の違反の刑罰と同じです。

運転をするなら、医薬品を服用する前にまず、その注意書きをよく読みます。その医薬品を服用して運転することが安全かどうか確かであれば、かかりつけの医師や薬剤師に尋ねます。

多くの薬物はアルコールの影響を何倍にも増加させたり、その他の副作用があります。飲酒と薬の服用を同時にする前に、薬の注意書きをよく読んだり、薬剤師に尋ねます。飲酒と薬物の同時服用は、安全運転に必要な能力が低下するだけでなく、健康を悪化させ、死に至ることもあります。

違法な薬物や麻薬はしばしば安全運転に必要な能力を低下させます。たとえば、マリファナの常習者は、他のドライバーと比較して、より頻繁に誤りを犯し、ギラギラする光線に対処することが困難であり、交通違反でより多く逮捕されています。

青少年のアルコール/麻薬/銃器携帯違反

飲酒または銃器携帯違反で初回の有罪判決を受けた13～17歳の青少年、あるいは麻薬違反で初回の有罪判決を受けた13～20歳の青少年は、1年間または17歳に達するまでのどちらか長い方の期間中、運転免許が取消しになります。

2回目の違反では、2年間または18歳に達するまでのどちらか長い方の期間中、運転免許が取消しになります。

この免許取消期間中は、免許証/仮運転免許証の取得、あるいは運転教習コースの受講はできません。運転する権利を復権する資格が取れたときには、保護者の同意を得た上で、筆記試験と路上試験を受験しなければなりません。通常の試験料および交付料のほか、さらに再発行料として75ドルを支払う必要があります。

健康状態

悪性の風邪、伝染病、ウイルスなどの健康問題は、運転に影響を及ぼすことがあります。肩こり、咳、あるいは脚の痛みなど、大した事のない症状でも運転に影響が出ることがあります。気分が良くないが出かける用事があるときは、誰か他の人に運転を頼みます。

症状の中にはたいへん危険なものもあります。

- てんかん - 治療を受けていれば、てんかんは通常、危険ではありません。ワシントン州では、医師の治療を受け、薬を服用しており、6ヶ月間発作を起こしていなければ運転してもよいことになっています。
- 糖尿病 - インシュリンを摂取している糖尿病患者は、インシュリン反応、一時的視覚喪失、けいれん、あるいはショックなどを起こす可能性があれば、運転はすべきではありません。このような症状は、食事や軽食を抜いたり、インシュリン摂取量を誤った時に起ります。医師が適切なインシュリン摂取量を調整している間は、他の人に運転を頼むのが良いでしょう。糖尿病患者は、夜盲症またはその他の視力異常が考えられますので、定期的に視力検査を受けるべきです。

- 心臓 - 心臓病にかかっている、高血圧である、循環器系に問題がある、あるいは一時的視覚喪失、失神、心臓発作などの危険がある人は、運転を行なうべきではありません。心臓病で医師の治療を受けている場合は、あなたの症状が運転能力に影響を及ぼすことがあるかどうか、医師に尋ねます。

感情

感情は安全運転に大きく影響を与えることがあります。もし、心配事がある、興奮している、恐れている、怒っている、あるいは憂うつであるなどの症状が過度であれば、安全運転できないかもしれません。

- 怒っていたり、興奮しているようなときは、落ち着くまで待ちます。必要であれば、少し歩き回ります。ただし、冷静になるまでは車道から離れておきます。
- 心配事がある、憂うつである、あるいは何かに腹を立てているようなときは、運転に神経を集中させるようにします。ラジオを聴くのが役立つ人もいます。
- いらいらするようなときは、目的地までの運転に余分に時間をかけるようにします。数分早めに出発すれば、目的地までスピードを出さずに済み、スピード違反でつかまることも避けられ、また、事故に遭ったりする危険を減少することができます。

路上での怒り

交通渋滞やスケジュールに追われる毎日が一般的となっている今日、怒りを路上で発散しているドライバーがいます。

あなたの周囲のドライバーが、怒りに任せて行動や反応をしているようであれば、距離的にも精神的にも、その状況から離れるようにします。目を合わせてはいけません。体の動きやジェスチャーで、そのドライバーの怒りを買うことになるかもしれません。減速する、道を譲る、あるいは他の方法で、危険な状況を安全に回避できるようにします。あなたの親切で他のドライバーも親切になるかもしれません。

他のドライバーに後を追われていたり、嫌がらせをされていると感じるときは、助けを求めます。人や開店中の店舗のあるエリアの出口でのみ、ハイウェイなどから出ます。携帯電話があれば、それを使って警察を呼びます。

緊急事態

どんなドライバーでも、遅かれ早かれ、緊急事態に陥ることがあるでしょう。どんなに注意を払っていても、問題を引き起こす可能性のある事態は存在します。しかし、用意周到であれば、深刻な結果を避けることができるかもしれません。

運転中に、車両に問題が起こる可能性は、常に存在します。車両の操作マニュアルで、推奨されているメンテナンスのスケジュールに従うべきです。このような予防策に従うと、車両に問題が起こる確率が大幅に減少します。起こりやすい故障の例と、それが起こったときに取る措置は次のとおりです。

ブレーキの故障

ブレーキが効かなくなったら、

- ブレーキペダルを何度か踏みます。これで、ブレーキの圧力を十分ためることができ、停止できることがよくあります。
- これがうまくいかなければ、サイドブレーキを使います。後部のタイヤがロックして横滑りしないよう、ゆっくりとサイドブレーキを使用します。もし横滑りしたら、ブレーキを解除できるよう準備します。
- それでもうまく行かない場合は、ギアを低速に変えて、停止するのに安全な場所を探します。必ず車両が車道から離れるようにします。ブレーキなしで、車両を運転してはいけません。

タイヤのパンク

突然タイヤがパンクしたら、

- ハンドルをしっかりと握り、車両をまっすぐ走行させます。
- 徐々に減速します。アクセルペダルから足を上げ、ブレーキを軽く踏みます。
- できる限り、車道で停止しないようにします。安全な場所まで車両を移動させ、車道から離れます。

電気系の故障

運転中にエンストを起こしたら、

- ハンドルをしっかり握ります。方向転換するのは困難かもしれませんが、力を入れると方向転換できます。
- 道路脇に車両を寄せます。ブレーキはまだ効きますが、強く踏まないと停止できないかもしれません。

ヘッドライトの故障

突然ヘッドライトが消えたら、

- 数回、ヘッドライトのスイッチをつけたり消したりしてください。
- これでうまくいかなければ、非常用点滅ライト、方向指示器、または霧用ライト(装備されていれば)をつけます。
- できるだけ早く道路脇に車両を寄せます。

アクセルペダルが踏んだまま上がらない

この状態では、速度が上昇し続けます。

- 道路から目を離さないようにします。
- 速やかにギアをニュートラルに入れます。
- 安全なときに、道路脇に車両を寄せます。
- エンジンを切ります。

衝突を避ける

衝突が起こりそうなとき、多くのドライバーはパニックに陥り、どうしたらよいかわからなくなります。たいていの場合、衝突を避けたり、衝突のインパクトを減少できるようなことがあります。衝突を避けるには、停止、方向転換、加速という3つのオプションがあります。

速やかに停止する

新型の車両の多くにはアンチロックブレーキシステム [antilock braking system (ABS)] が装備されています。ABSの使い方について、車両の操作マニュアルを必ず読みます。ABSを使えば、横滑りしないで停止できます。

ABS装備の車両 - 車両にアンチロックブレーキシステムが装備されており、速やかに停止しなければならない場合、

- できるだけ強くブレーキペダルを踏み続けます。
- ABSが作動すると、ブレーキペダルが押し上がるのを感じますが、ペダルを踏み続けたままでいなければなりません。ABSは、ブレーキペダルを踏んだ状態でなければ作動しません。

ABSが装備されていない車両 - 速やかに停止しなければならないが、車両にアンチロックブレーキシステムが装備されていない場合は、

- ブレーキを強く踏みすぎると、横滑りを起こす可能性があります。
- ロックしない程度で、できるだけ強くブレーキを踏みます。
- ブレーキがロックしたら、車両が横滑りするのがわかります。すぐにブレーキペダルから足を上げます。
- 横滑りがとまったらすぐに、もう一度ブレーキを踏みます。車両が停止するまで、これを繰り返します。

速やかに方向転換する

衝突を避けるために、方向転換も考慮すべきです。たいいていの場合、方向転換の方が停止より速やかにできます。

ハンドルをしっかり握っていることを確認します。方向転換や車線変更をした後も、車両をコントロールし続けられる準備ができていなければなりません。ある衝突事故を回避するために方向転換して、結果的に別の衝突事故に関わってしまうドライバーも少なくありません。常に車両を走行させたい方向にハンドルをきります。

ABS装備の車両 - ABSが装備されていれば、横滑りせずにブレーキを踏みながら、方向転換することができます。これは、方向転換して、停止または減速しなければならない場合に、非常に役立ちます。

ABSが装備されていない車両 - ABSが装備されていなければ、他の方法で速やかに方向転換しなければなりません。ブレーキペダルを踏み、一度離してからハンドルを切ります。ブレーキを踏むと車両は速度を落とし、前輪により重量がかかり、速やかに方向転換することができます。車輪が横滑りするので、ブレーキを踏んでいる最中に前輪をロックさせたり、急にハンドルを切ってはけません。

通常、他の車両に正面衝突するよりも、車道からそれた方が安全です。

加速

衝突事故を避けるため、加速することが最良、あるいは必要なときがあります。これは、他の車両があなたの車両の側面あるいは後部に今にも衝突しそうなときで、危険を回避するため前方に十分スペースがある場合です。危険な状況を回避したら、忘れずに減速しなければなりません。

横滑りの対処

普通の状況下では安全な道路でも、路面が濡れたり、雪や氷で覆われているときには危険になります。また、普通の状況下でも高速で走行していると、急な方向転換や停止の際に横滑りを起こす危険性が増大します。タイヤと路面の摩擦がなくなったときに、横滑りが起こります。横滑りしている車両をコントロールするのは不可能なので、まず横滑りを避けるのが最良の方法です。状況に適さない、速い速度で運転しているドライバーが、よく横滑りを起こしています。

あなたの車両が横すべりをはじめたら、

- ブレーキから足を離します。車両の速度が落ちるまでブレーキは作動せず、踏み続けていると更に横滑りがひどくなることがあります。
- ハンドルを切ります。車両を走行させたい方向にハンドルを切ります。車両の向きがまっすぐになったら、即座に逆方向にハンドルを切ります。こうしないと、車両はその逆方向に回転し、新たに横滑りを始めてしまうかもしれません。
- 続けてハンドルを切ります。車両のコントロールを回復して直進するまで、引き続き、左右にハンドルを切ります。



衝突の際の自己防衛

いつも衝突事故を避けられるとは限りません。衝突されないよう最善を尽くしてもだめな場合は、衝突の際、できるだけ軽傷で済むようにします。最も重要なのは、ラップベルトとショルダーベルトを正しく着用することです。シートベルトのほか、重傷を避けるための方法を次に説明します。

- 後部追突 - 後部に追突されたら、あなたの体は後ろ向きに打ち付けられます。シートの背に体をぴったりつけ、頭部をヘッドレストにもたせかけます。勢いで押されて他の車両に衝突しないよう、ブレーキを踏めるようにしておきます。

- **側面衝突** - 側面に衝突されたら、あなたの体は衝突された方向に投げ出されます。この状況では、エアバッグは役に立ちません。ハンドルの前にとどまるには、ラップベルトとショルダーベルトが必要です。他の車両に衝突しないよう、ハンドルを切ったり、ブレーキを踏めるようにしておきます。
- **前部追突** - 今にも前部に衝突されそうなとき、正面衝突よりもかする程度の衝突ですむように努めてください。これは、衝突が起きそうなとき、ハンドルを切ることを意味します。最悪の状況でも、かすった程度ですむか、あるいはまったく衝突しないですむかもしれません。エアバッグが装備されていれば膨れ上がりますが、衝突の後しぼむので、他の車両に衝突しないようにしてください。ハンドルの前にとどまるために、また、二次衝突の場合にあなたの体を保護するため、ラップベルトとショルダーベルトを着用していなければなりません。

衝突

あなたが衝突事故に関わっているか、緊急車両がまだ現場に到着していない場合以外は、衝突事故現場で停止してはいけません。自分の運転に注意しながら走行を続け、また車道内あるいは道路脇の人にも注意します。衝突事故現場、火事、あるいはその他の災害現場を見ようとして、その現場に向かっただけではいけません。警察、消防車、救急車、レッカー車、あるいはその他の救出車両の通行の邪魔になる恐れがあります。警察官、消防士、その他、事故現場で交通整理をすることが認められた人すべての指示に従わなければなりません。消火用ホースの上を運転することは違反です。このようなことをすると、ホースをいためたり、消防士に怪我をさせたり、消火の妨害になります。

あなたがどんなに優れたドライバーでも、衝突事故に関わることがあるかもしれません。事故に関わったら、必ず停止しなければなりません。駐車してある車両に衝突したら、その車両の所有者を見つけなければなりません。もし負傷者や死亡者がいたら、警察に通報しなければなりません。負傷者や死亡者がいた事故にあなたの車両が関わっており、警察があなたの報告を聞き、必要な情報を入手するまでは、衝突事故現場を離れると犯罪とみなされます。

車両に基本的な非常用セットを用意しておくといよいでしょう。このようなセットには、緊急発火装置（フレア）、応急手当のセット、および基本的なツールが入っています。

衝突事故現場で

- すべての衝突事故において、損傷が車両やその他の所有物のみに限られる場合は、運転者は車両を道路、フリーウェイ、路肩、または中央分離帯から、出口ランプの路肩、側道、交差道路、またはその他停車に適した場所にできるだけ早く移動させます。
- その他すべての衝突事故では、衝突事故現場、またはそのそばに車両を停止させます。車両を移動できるなら、他の車両の通行を妨げたり、新たに衝突事故が起きないように、道路脇へ寄せます。
- 車両が走行中の車線内で、立ったり歩いたりしてはいけません。他の車両に追突される恐れがあります。
- 事故車のイグニッションをオフにします。事故車の周囲でたばこを吸ってはいけません。ガソリンが漏れている恐れがあり、火事の危険性があります。
- 路上に電線の付いた電柱が倒れている場合は、近づいてはいけません。
- 走行中の車両がその事故に巻き込まれないように注意してください。緊急発火装置または警告用機器を使って、他の車両に衝突事故の発生を合図し、注意を促します。

負傷者が出たら

- 救助を求めます。警察および緊急医療/救出隊が通報を受けたことを確認します。火事が発生していたら、警察にその旨を伝えます。
- 負傷者が燃えている車両の中にいるか、または即座に他の車両に追突されたりする危険性がある場合以外は、負傷者を動かしてはいけません。動かすと、傷害を悪化させる恐れがあります。
- まず、立ち上がったたり話をしていない人を救助します。呼吸しているかを調べ、それから出血の有無を調べます。

- 出血していたら、傷口を直接、手あるいは布で圧迫します。傷口に圧力を加えると、重傷でも止血、または出血量を減らすことができます。
- 負傷者にはたとえ水でも、飲料を与えてはいけません。
- 負傷者がショック状態に陥ることを防ぐため、毛布またはコートで体を覆って温めます。

衝突事故の報告

- 負傷者を始めとして、衝突事故に関わった人および目撃者全員の氏名と住所を入手します。
- 衝突事故に関わった他のドライバーと、氏名、住所、運転免許証番号、車両の情報（ナンバープレート、メーカー、モデル、製造年）、保険会社と保険証番号（あれば）の情報を交換します。
- 衝突によって車両が受けた損害を記録します。
- 要請を受けたら、警察あるいは緊急担当員に情報を提供します。
- 駐車してある車両に衝突した場合は、その所有者を見つけます。所有者が見つからないときは、見つけやすい場所に、あなたの連絡先および事故発生の月日と時間を記したメモを残しておきます。
- 負傷者または死亡者が出た場合、または一個人の所有物に700ドル以上の損害が出た場合で、警察官による通報が行なわれなかった場合は、あなたが4日以内にワシントン州運輸局（Washington Department Of Transportation）宛てに衝突事故報告書（Collision Report form）を使用して通報しなければなりません。報告書は、www.wsdot.wa.gov/mapsdata/tdoで入手するか、(360) 570-2355まで電話でご請求ください。

車両認可

登録

ワシントン州在住で、車両を所有し、公道を運転する住民はすべて、DOLに車両を登録しなければなりません。新規に住民となった人は、住民になってから30日以内に車両登録しなければなりません。

ワシントン州の住民であり、他州で購入した車両をワシントン州内の公道で運転する場合は、速やかに車両登録しなければなりません。

Clark、King、Pierce、Snohomish、およびSpokane郡の一部地域では、製造後5年から25年経った車両のほとんどは、その車両が他州で合格していた場合でも、2年ごとの排気ガス検査に合格しなければなりません。排気ガス検査が必要かどうか、および検査センターの場所については、1-800-272-3780まで電話でお問い合わせになるか、www.ecy.wa.govをご覧ください。

持参するもの

車両の所有権証明および登録を行うには、次の書類を車両認可事務所まで持参します。

- 現在有効な、車両所有者証明書（権利証書）と登録書。所有者証明書を紛失した場合は、州発行事務所（the state of issuance）に再発行を申請しなければなりません。所有者証明書が他州で発行されたもので、かつ担保権所有者が証明書を保持している場合は、ワシントン州で登録を行うためには現在の所有者証明書の写しを持参しなければなりません。
- 登録済みの所有者全員の身分証明書。
- 製造後10年未満の車両については、走行距離を保証走行距離記録用紙に記入したものの。
- 以前の所有者証明書または登録書に記載のない場合、トラック、トレーラー（旅行用を除く）、およびプロパン駆動の車両の重量表。
- 車両認可手数料および税金の支払いのための現金、個人用小切手、銀行小切手、または為替。

車両を登録、または車両タブを更新する際、次に該当しない限り、登録済みの全ての車両所有者は、有効な運転免許証を提示しなければなりません。

- 公道で自動車を運転しないワシントン州の住民である。
- 運転免許を紛失、盗難、没収、停止、または取り消されている場合。
- 次に該当する免許所有者である。
 - 地域外、州外、または国外にいる。
 - 投獄されている。
 - 離婚訴訟で車を与えられなかった。
 - 死亡している。
- 運転免許条件から除外されている。これには以下の人が該当します。
 - 現役軍人。
 - 16歳以上で、居住する州または国で交付された有効な運転免許証を所持しており、また、最低5年の運転経験がある有効な運転免許を持つドライバーが同伴する非住民。
 - 特別なハイウェイ建設機器（RCW. 46. 16. 010）、農業用トラクター、またはレールの上を走る機関車を運転する人。

車両所有者証明書（権利証書）

車両所有者証明書（権利証書）は、モペット、モービルホーム、キャンピングカー、トレーラー、特定の電気車両、およびオフロード車両を含む車両に発行されます。ワシントン州ではスノーモービルには所有者証明書は発行されませんが、毎年登録が義務付けられています。

権利証書には登録された法的所有者が記載されます。車内以外の安全な場所に保管してください。

所有権を譲渡する場合、所有者全員が権利証書に署名と日付の記入を行い、購入者に渡します。購入者は、罰金を避けるため、15日以内に所有権を移行しなければなりません。ディーラーから車両を購入した場合は、所有権の移行手続きはディーラーの責任です。

売却の報告

車両を個人に、またはディーラーに売却あるいはトレードした場合、所有者は5日以内にその旨を報告する必要があります。売却報告書 (Reports of Sale) は、新しい車両所有者証明書の上の部分に該当します。または、ワシントン州の車両認可事務所、あるいはDOLのウェブサイトから入手できます。売却報告書をワシントン州の車両認可事務所に持参し、小額の手数料を支払ってその場で手続きを完了するか、ウェブサイト www.dol.wa.gov からオンラインで無料で届け出すことができます。車両の売却、トレード、贈与、または処分から5日以内に、正しく記入した売却報告書を提出しします。こうしておくこと、新しい所有者が権利証書を移行しなかった場合に特定の民事責任の回避策となります。

ナンバープレート

ナンバープレートは、ワシントン州に登録されている車両の前後両方に取り付けなければなりません。ナンバープレートの年月の更新ステッカーは後部プレートだけに貼ります。

障害者駐車優先権-歩行に制限を伴う、または歩行能力を損なう身体的障害がある場合、期限付きもしくは無期限の障害者駐車優先権および身分証明書を入手できます。申し込みは、車両認可事務所、免許交付事務所、またはDOLのウェブサイトで障害者駐車優先権申し込み用紙 (Disabled Person's Parking Privileges Application form) を入手し、医師の協力を得て記入してください。ほとんどの車両認可事務所で手続きができます。

規制標識



速度制限
(時速55マイル)



ゆずれ



Uターン禁止



一旦停止



進入禁止



追い越し禁止



誤った進入路
(進入禁止)



右車線使用せよ
(追い越し以外)



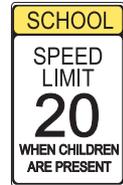
遅い車両は右車線
使用せよ



障害者用駐車区画



右折禁止



スクールゾーン：
子供がいる時は
制限速度時速
20マイル

工事の標識



迂回路



前方に旗を持った
交通整理員あり

サービス標識



病院



電話

目的地の標識



市と距離



出口専用/オプション出口



KNOW THE FACTS

- ▶ For every highway construction or maintenance employee killed or injured in a work zone accident, 12 motorists are killed and 214 are injured.
- ▶ Traffic fines double inside a highway work zone.
- ▶ It is against the law to drive negligently within a highway work zone or to ignore directions from flaggers or signage.
- ▶ Four out of five people killed in highway work zones are drivers and passengers.

SLOW DOWN, SAVE LIVES.



Washington State
Department of Transportation